

第250回  
地震防災対策強化地域判定会  
委員打合せ会

記者レクチャー資料



平成19年3月26日

気象庁

この資料は、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人産業技術総合研究所、東京都、青森県、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び気象庁のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

## 目次・概況

### 定例資料

#### 【地震活動】

##### 1 頁 2007 年 2 月の活動

想定震源域及びその周辺で発生した  $M \geq 3.0$  の地震は、

|             |              |
|-------------|--------------|
| 14 日 神奈川県西部 | 深さ 13km M3.1 |
| 23 日 静岡県中部  | 深さ 32km M3.2 |

南関東における  $M \geq 3.5$  の地震は、

|            |              |
|------------|--------------|
| 4 日 千葉県北西部 | 深さ 67km M4.3 |
| 10 日 茨城県南部 | 深さ 50km M3.6 |

その他の地域で目立った地震はない。

2004 年 9 月 5 日の東海道沖の地震 ( $M7.4$ ) の  $M4$  以上の余震は 1 回 (25 日  $M4.6$ ) で、2006 年 5 月以来であった。

また、静岡県西部では 1 月 27 日頃から 2 月 12 日頃にかけてまとまった活動があった (最大は 1 月 30 日の  $M2.9$ 、2 月中の最大は 2 月 6 日  $M2.8$ )。神奈川県西部の箱根付近では 2 月 16 日頃から 2 月 18 日頃にかけてまとまった活動があった (最大は 2 月 17 日の  $M2.1$ )。

##### 2 頁 2007 年 3 月の活動 (1 日~24 日)

想定震源域及びその周辺で発生した  $M \geq 3.0$  の地震は、

|              |              |
|--------------|--------------|
| 4 日 神奈川県西部   | 深さ 23km M3.5 |
| 9 日 岐阜県美濃中西部 | 深さ 14km M3.0 |
| 13 日 伊豆半島東方沖 | 深さ 5km M3.0  |

南関東における  $M \geq 3.5$  の地震は、

|             |              |
|-------------|--------------|
| 3 日 千葉県東方沖  | 深さ 48km M4.0 |
| 8 日 千葉県東方沖  | 深さ 38km M4.2 |
| 14 日 千葉県北東部 | 深さ 52km M4.7 |
| 22 日 埼玉県南部  | 深さ 78km M4.2 |

その他の地域で目立った地震はない。

2004年9月5日の東海道沖の地震(M7.4)のM4以上の余震はなかった。

また、相模湾(伊豆半島東方沖)では3月10日頃から3月11日頃にかけて(最大は3月11日のM1.4)、網代付近(静岡県伊豆地方)では3月22日(最大はM1.7)に小規模な活動があった。静岡県東部(箱根付近)では3月16日に小規模な活動があった(最大M1.9)。

### 3-4 頁 発震機構(最近2ヶ月)

東海地方での地震は、

4: 2月13日岐阜県美濃中西部の地震は、北東-南西方向に圧力軸をもつ逆断層型。

6: 2月23日静岡県中部の地震は、東西方向に張力軸をもつ横ずれ断層型。

9: 3月9日岐阜県美濃中西部の地震は、西北西-東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型。

10: 3月13日伊豆半島東方沖の地震は、北西-南東方向に圧力軸をもつ逆断層型。

### [主な地震活動]

#### 5 頁 3月4日神奈川・山梨県境付近[神奈川県西部]の地震

神奈川・山梨県境付近の深さ23kmでM3.5の地震が発生した。フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突していると考えられる場所で発生した地震である。

#### 6 頁 3月9日岐阜県美濃中西部の地震

岐阜県美濃中西部の深さ14kmでM3.0の地震が発生した。陸域の地殻内で発生した地震である。

#### 7 頁 伊豆半島東方沖の地震活動

3月13日に伊豆半島東方沖の深さ5kmでM3.0の地震が発生した。この地震の北西側で、3月10日から11日にかけて小規模な地震活動があった。

#### 8 頁 伊東市鎌田における日別地震回数

#### 9 頁 御前崎沖の地震活動

御前崎沖のクラスターの地震活動が、2006年8月より静穏な状況となっている。

### [活動指数等の資料]

#### 10-13 頁 活動指数

固着域: ほぼ平常(5~6)。

M2.0以上の地震(11頁)も、ほぼ平常(4~6)。

愛知県: 地殻内は平常(4)だが、プレート内はやや高い(7)。

M2.0 以上の地震 (12 頁) は、地殻内がやや高く (7)、プレート内は平常 (4)。  
浜名湖：短期は平常だが、長期はやや低い (0~2)。東側では短期で見ると 2000 年半  
ばから低めの指数 (1~4) の変動を繰り返し、今回は 4 になっている (13  
頁)。  
駿河湾：短期・中期ともにほぼ平常 (3)。

#### 14-15 頁 固着域

(最近の 90 日間)

[地殻内]

静岡県西部 (袋井~掛川付近) で 1 月末から 2 月前半にかけてまとまった活動が  
あった。

[フィリピン海プレート内]

3 月に入ってからはやや低調。

(1997/01/01~2007/03/17、M3.5 以上は 1987/09/01~2007/03/17)

[フィリピン海プレート内]

M3.5 以上の地震発生回数を見ると、2001 年後半ごろから少なかったが、12 月  
16 日に静岡県中部で M4.0 の地震が発生した。

1998 年後半~2000 年前半にも静穏な時期があった。

M2.0 以上では 2005 年半ば以降やや静穏であったが、最近は回復傾向。

#### 16-19 頁 愛知県

[地殻内]

(2004/01/01~2007/03/17 M $\geq$ 1.1)

特に変化はない。

[フィリピン海プレート内]

(2004/01/01~2007/03/17 M $\geq$ 1.1)

2007 年に入ってから地震活動は一時的にやや活発になっている。揺らぎかどうか、今  
後の推移を見る必要がある。

特に集中的に地震が発生している場所はなく、愛知県フィリピン海プレート内全域でぼ  
つぽつと地震が発生している状況である。

[長期、地殻内・フィリピン海プレート内]

(1987/09/01~2007/03/17)

M3.0 以上の地震活動 (地震回数積算図の傾き) を見ると、フィリピン海プレ  
ート内では 2003 年もしくは 2004 年以降地震活動が低調。現在は、回復傾向のように

見える。

20 頁 浜名湖 (1995/01/01~2007/03/17  $M \geq 1.1$ : フィリピン海プレート内)

〔東側〕 2000 年後半から浜名湖北岸にあるクラスターの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下した状態が継続している。短期指数は 2 (やや低い) が続いていたが、今期は領域の北側で  $M2.3$  (2007.3.7) の地震が発生したことにより 4 (平常) に回復している。

〔西側〕 2006 年以降、やや低調。

21 頁 低周波地震活動とスロースリップ

2007 年 2 月 5 日頃から 2 月 9 日頃にかけて、低周波地震活動の活発化と短期的スロースリップの発生が観測された。

【地殻変動】

22 頁 歪計観測点配置図

23-25 頁 体積歪計

伊良湖、蒲郡、天竜及び川根で 2007 年 2 月 5 日頃から 13 日頃にかけて歪変化が観測された。これと同様の変化は、2005 年 7 月 20 日から 22 日にかけて、及び、2006 年 1 月 16 日から 22 日にかけて観測された。

伊良湖、蒲郡、天竜及び川根

2007 年 2 月 5 日頃から 13 日頃にかけて歪変化が観測された。この歪変化は、掛川・春野・佐久間・本川根・浜北の多成分歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。これと同様の変化は、2005 年 7 月 20 日から 22 日にかけて、及び、2006 年 1 月 16 日から 22 日にかけて観測された。

三ケ日 2006 年 7 月下旬から 8 月頃に見られる縮みとその後の回復の変化は、毎年夏になると見られるもので、水位の変化と相関があり、並行観測している旧観測点でも同様の変化が見られる。2006 年 4 月中旬から降水に伴う局所的な変化が見られた。

榛原 2006 年 5 月 3 日、9 月 26 日、11 月 16 日及び 11 月 29 日に局所的な変化が見られた。

藤枝 2006 年 8 月 30 日に局所的な変化が見られた。

静岡 5 月頃から 7 月にかけての伸び変化とその後の縮み変化は、例年見られるものである。

石廊崎 2006 年 7 月 14 日に局所的な変化が見られた。

東伊豆 2006年3月30日から、4月17日から及び11月10日から、伊豆半島東方沖の地震活動に伴う縮み変化が見られた。

2006年4月21日に伊豆半島東方沖のM5.8の地震に伴うステップ状の変化が見られた。

網代 2006年4月21日に伊豆半島東方沖のM5.8の地震に伴うステップ状の変化が見られた。

#### 26-30 頁 多成分歪計（掛川、春野、佐久間、本川根、浜北）

掛川、春野、佐久間、本川根及び浜北で、2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。これと同様の変化は、2005年7月20日から22日にかけて、2006年1月16日から22日にかけて、及び、2006年8月27日頃から9月1日頃にかけて観測された。

掛川、春野、佐久間、本川根および浜北

2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。

この歪変化は、伊良湖、蒲郡、天竜及び川根の体積歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

掛川、佐久間、本川根および浜北

2006年8月27日頃から9月1日頃にかけて歪変化が観測された。

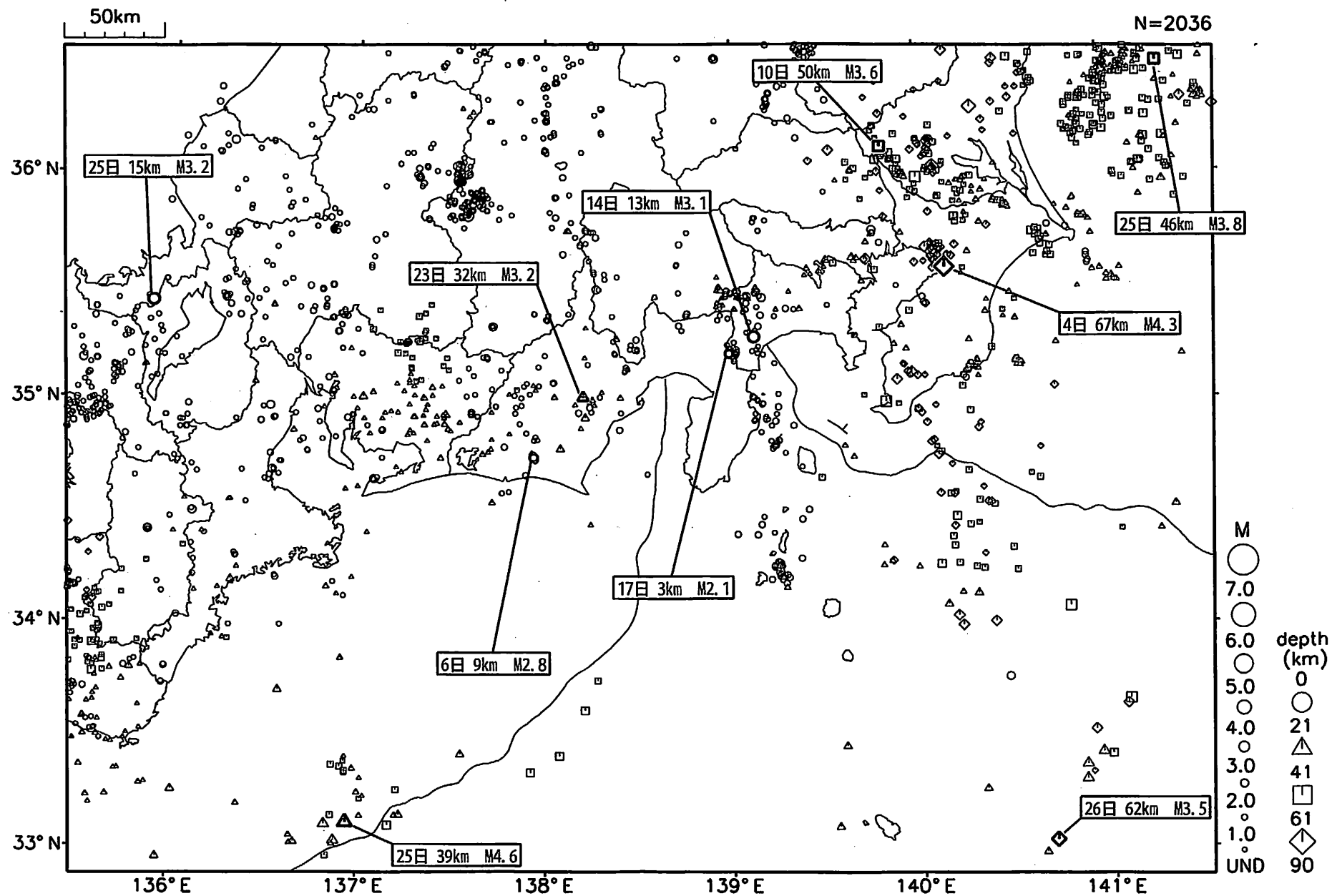
本川根

2006年春頃から歪4で局所的な変化が見られた。

浜北

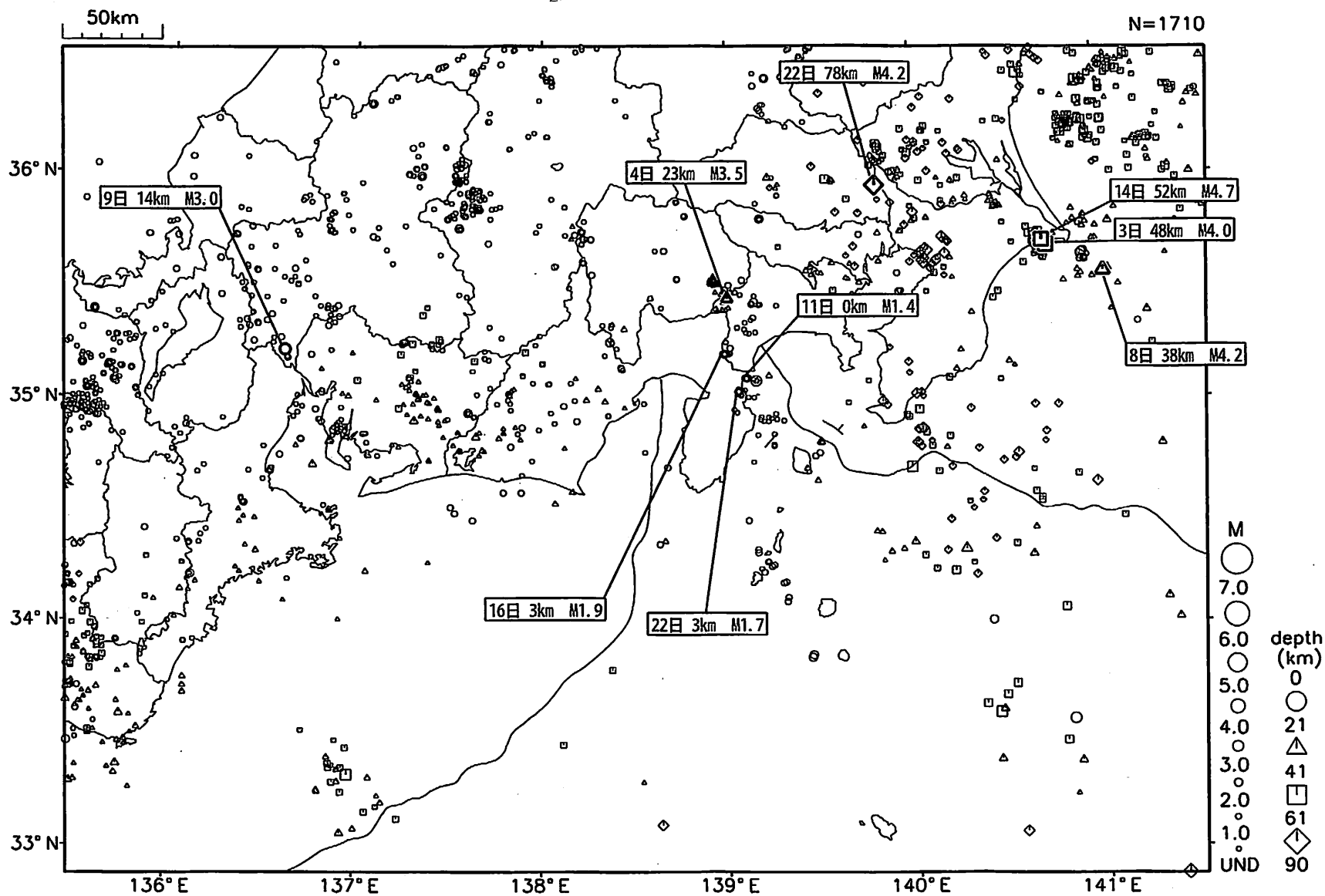
2006年7月19日以降及び12月26日以降、センサーのごく近傍で局所的な変化が見られた。2006年10月下旬から11月上旬にかけて歪1で局所的な変化が見られた。

# 東海・南関東地域の地震活動 2007年2月



気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2007年3月(1日~24日)

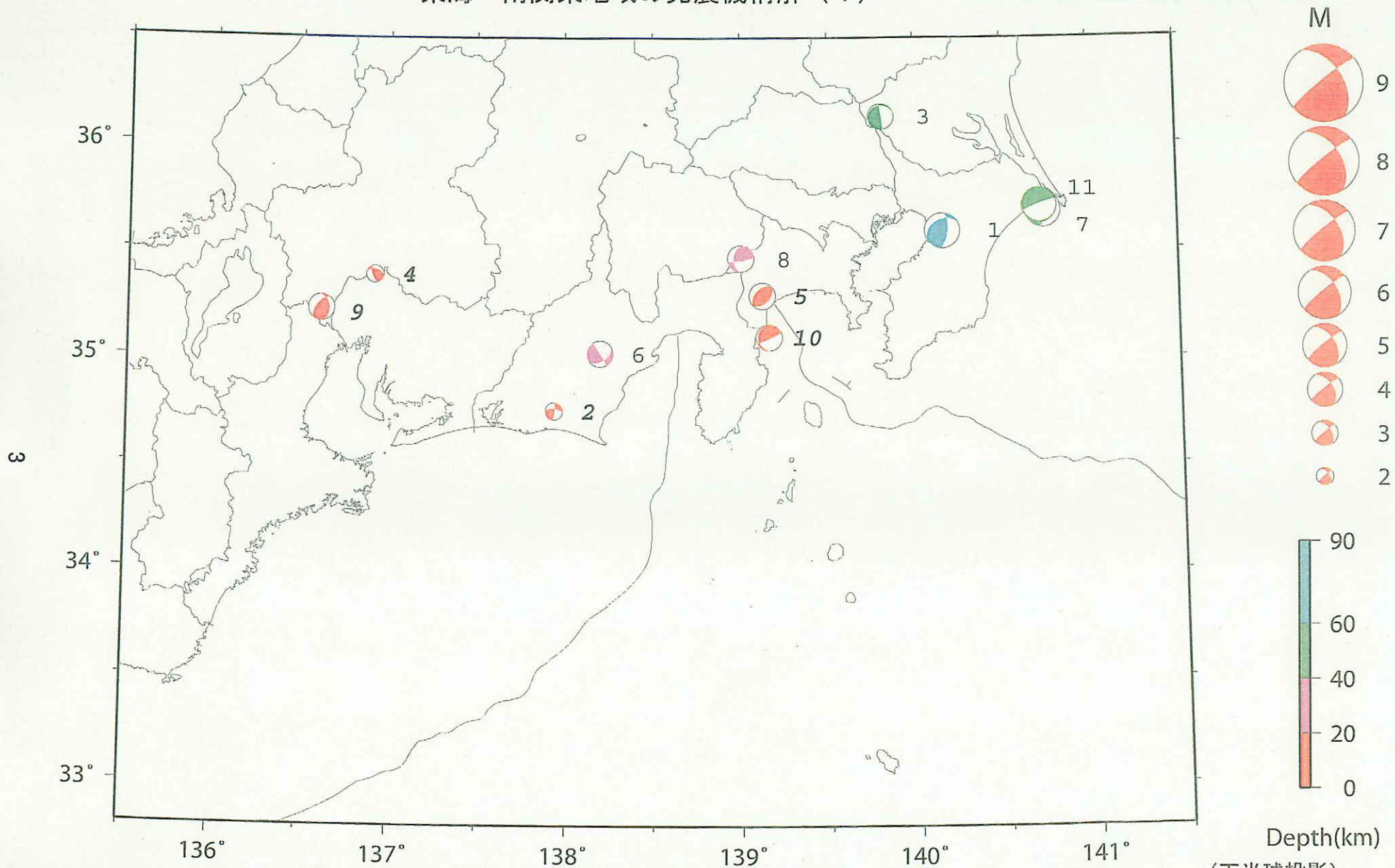


気象庁作成

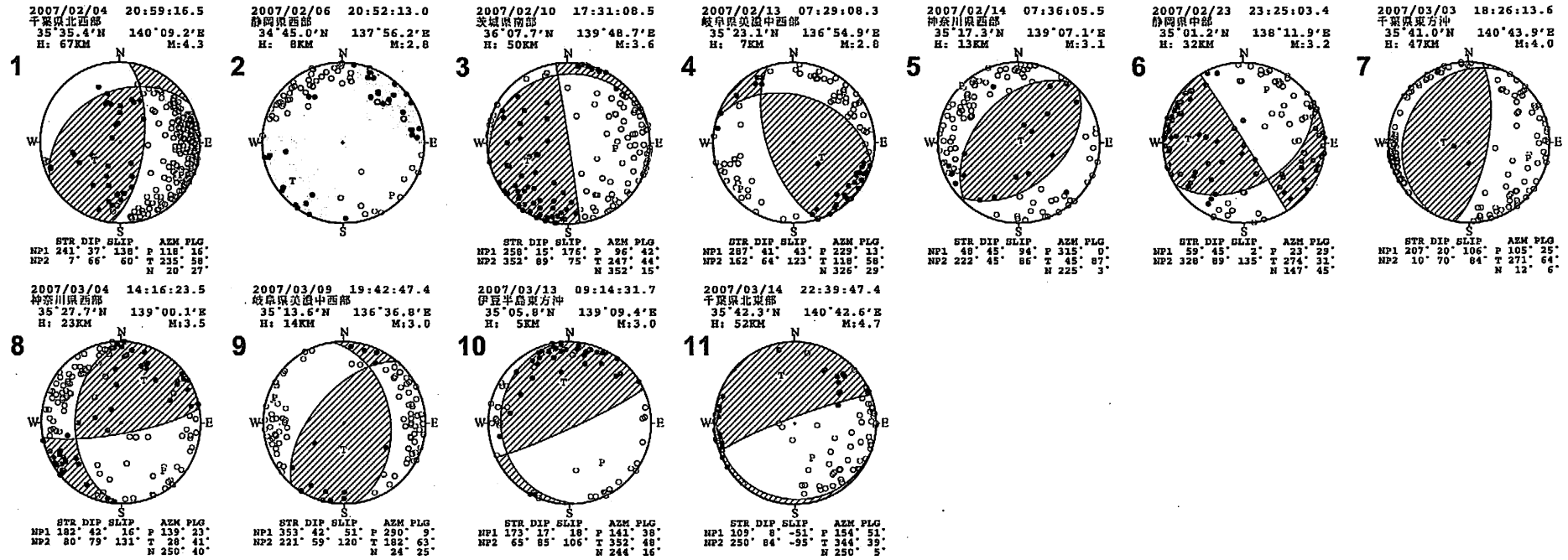


# 東海・南関東地域の発震機構解（１）

Period:2007/02/01 00:00--2007/03/21 24:00



# 東海・南関東地域の発震機構解 (2)



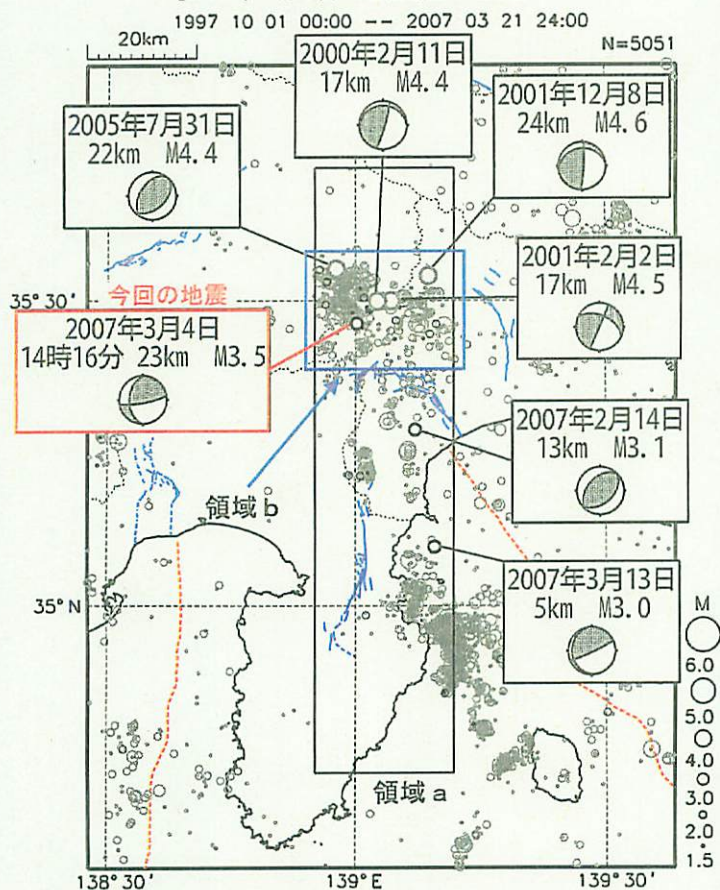
(下半球投影)  
[気象庁作成]



# 3月4日 神奈川・山梨県境付近〔神奈川県西部〕の地震

## A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 1.5$ )

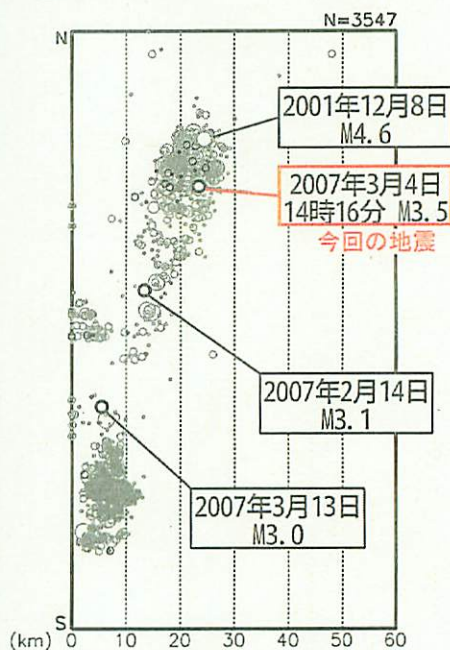
[2007年1月以降の地震を濃く表示]



2007年3月4日14時16分に神奈川・山梨県境付近(神奈川県西部)の深さ23kmでM3.5(最大震度2)の地震が発生した。発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ型で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突していると考えられる場所で発生した地震である。今回の地震の付近では、最近では2005年7月31日にM4.4(最大震度3)の地震が発生している。(A)

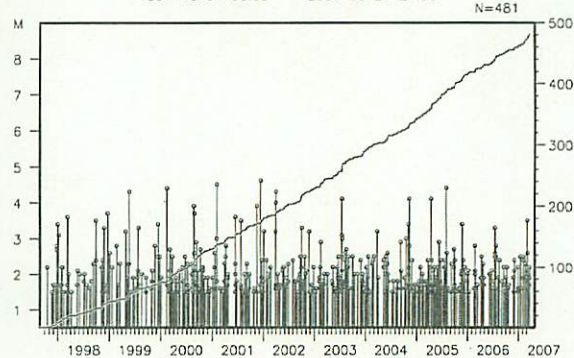
## 領域a内の南北断面図

1997 10 01 00:00 -- 2007 03 21 24:00



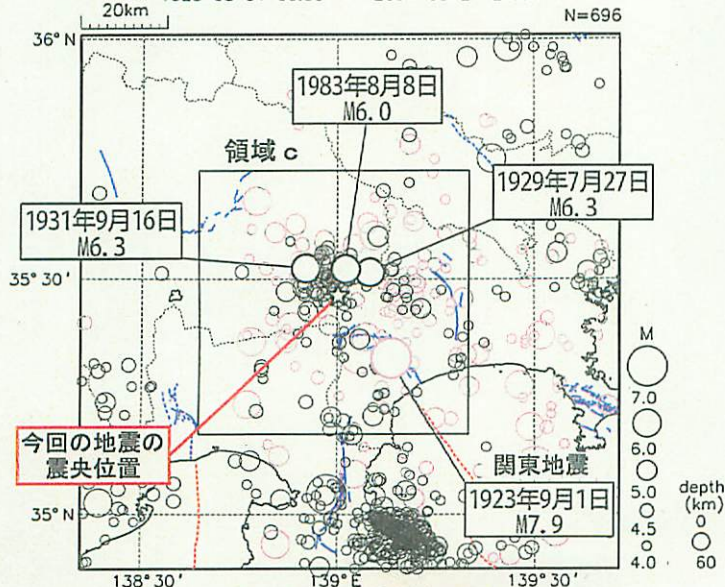
## 領域b内の地震活動経過図、回数積算図

1997 10 01 00:00 -- 2007 03 21 24:00



## B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ )

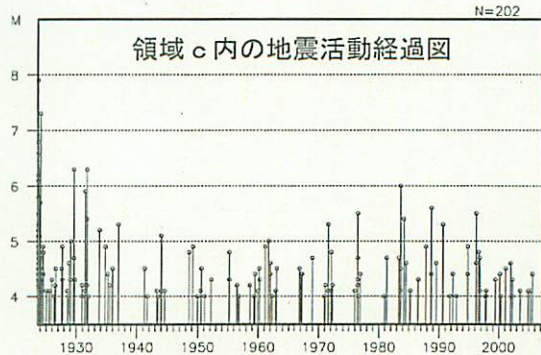
1923 08 01 00:00 -- 2007 03 21 24:00



[1926年以降の地震を濃く表示]

1923年8月以降の活動をみると、1923年の関東地震の活動以降では、M6.0以上の地震が3回発生している。最近では1983年8月8日にM6.0(最大震度4)の地震が発生している。(B)

1923 08 01 00:00 -- 2007 03 21 24:00



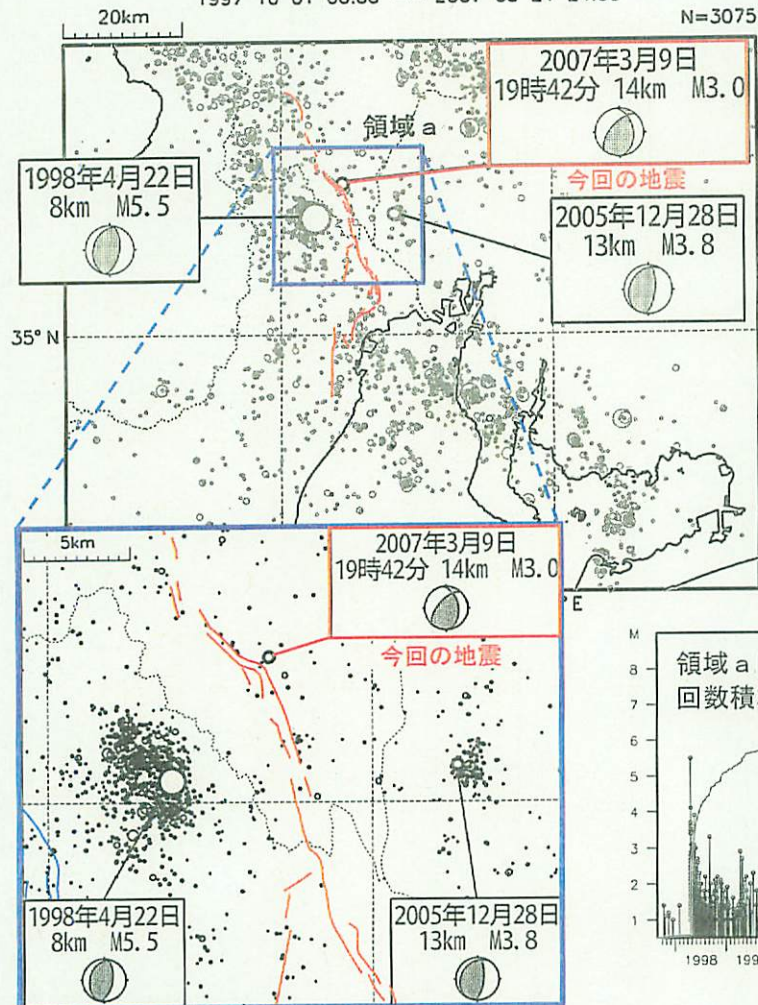


## 3月9日 岐阜県美濃中西部の地震

**A** 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 1.0$ )

(2007年3月以降の地震を濃い○で示した)

1997 10 01 00:00 -- 2007 03 21 24:00

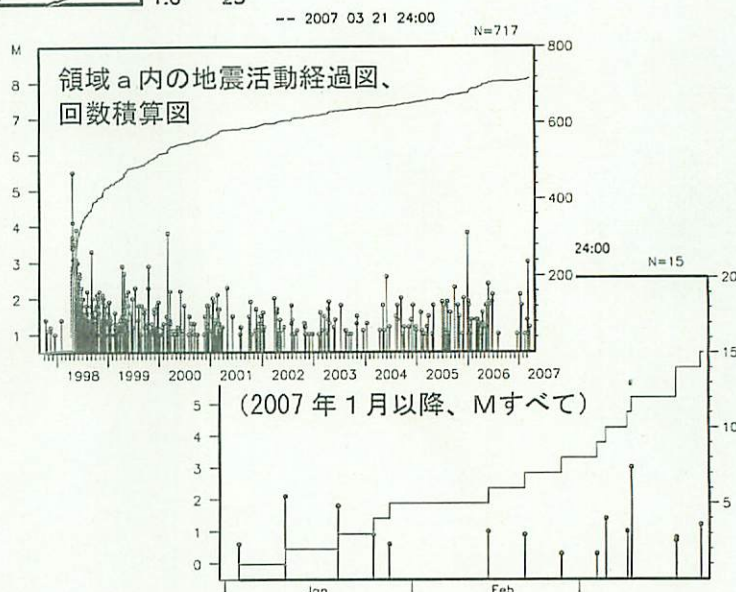


領域 a 内の震央分布拡大図 (Mすべて)

2007年3月9日19時42分に岐阜県美濃中西部の深さ14kmでM3.0(最大震度1)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、付近ではよく見られるタイプである。余震は発生していない。今回の地震の震源近傍では地震活動はそれほど活発ではないが、今回の地震の震源の西方では1998年4月22日にM5.5(最大震度4)の地震が発生している。

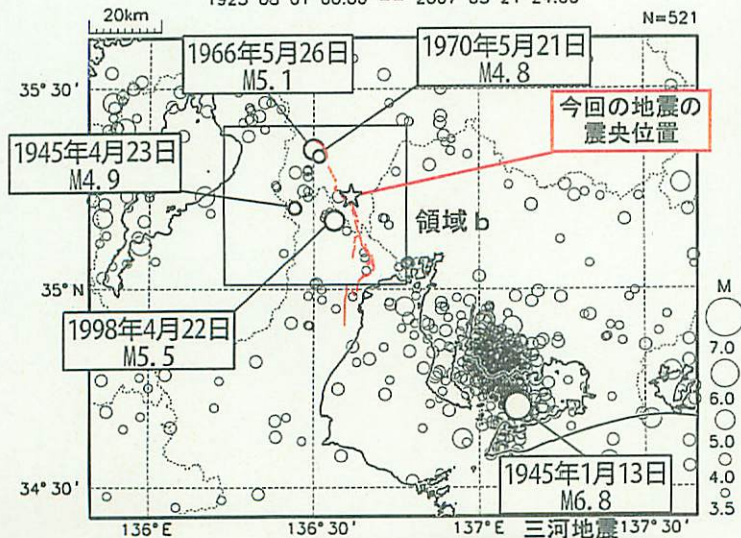
なお、今回の地震の震源付近には養老-桑名-四日市断層帯がある。(A)

：養老-桑名-四日市断層帯のトレース  
(地震調査委員会による)

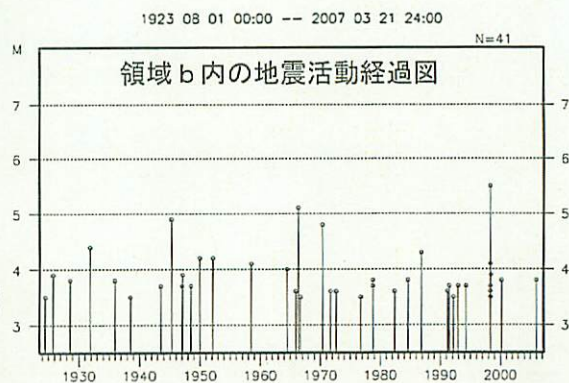


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 3.5$ )

1923 08 01 00:00 -- 2007 03 21 24:00



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M5.0以上の地震が2回発生している。(B)



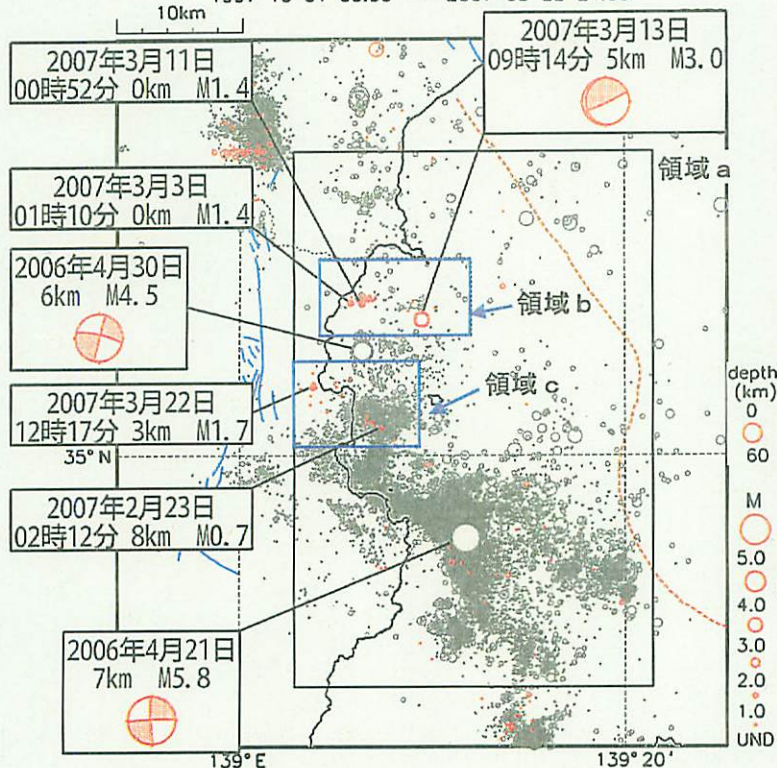


# 伊豆半島東方沖の地震活動

震央分布図 (1997 年 10 月以降、M すべて)

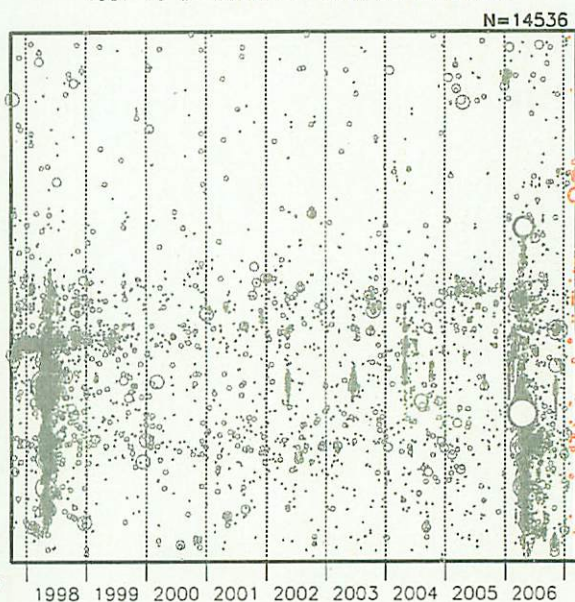
[2007 年 3 月以降の地震を赤で表示]

1997 10 01 00:00 -- 2007 03 22 24:00

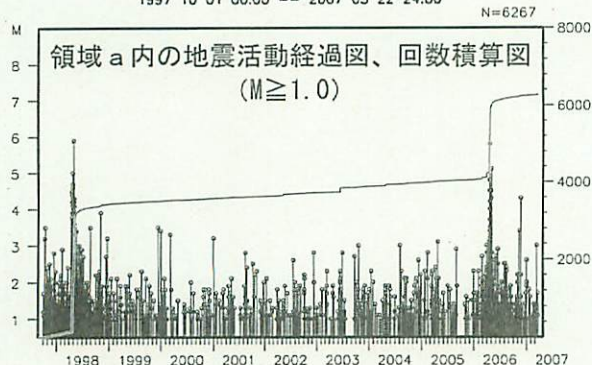


領域 a 内の時空間分布図 (南北投影)

1997 10 01 00:00 -- 2007 03 22 24:00



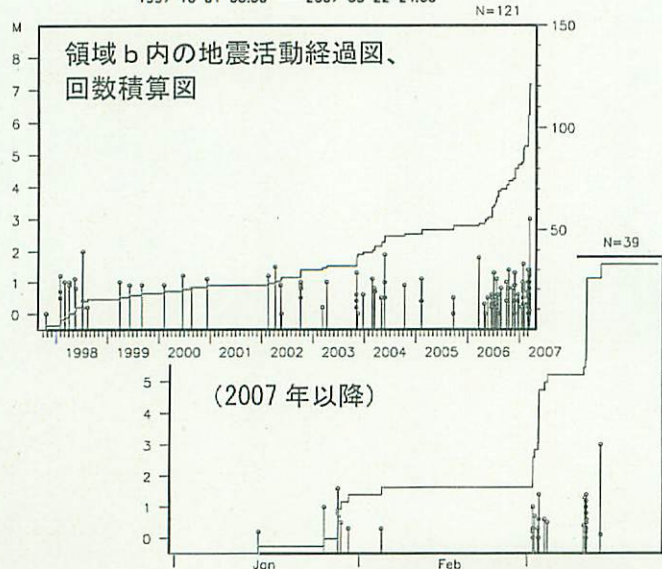
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 22 24:00



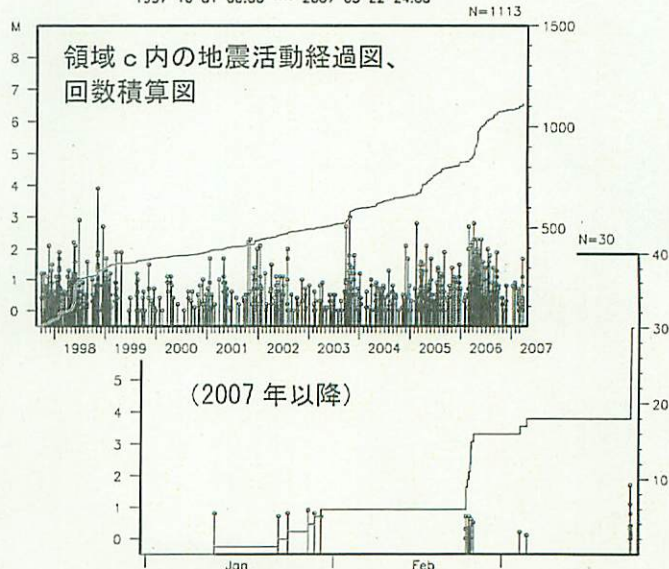
2007 年 3 月 13 日 09 時 14 分に伊豆半島東方沖で M3.0 (最大震度 1) の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。余震は直後に 1 回観測されたのみである。伊豆半島東方沖では、2006 年 4 月 21 日に M5.8 (最大震度 4) の地震が発生するなど、時折活発な地震活動が見られるが、今回の活動域 (領域 b) はそれらの活動の北端付近であり、2006 年 4 月の活動以降、地震活動が活発となっている。

伊豆半島東方沖ではその他の領域でも微小な地震活動が見られた (領域 c)

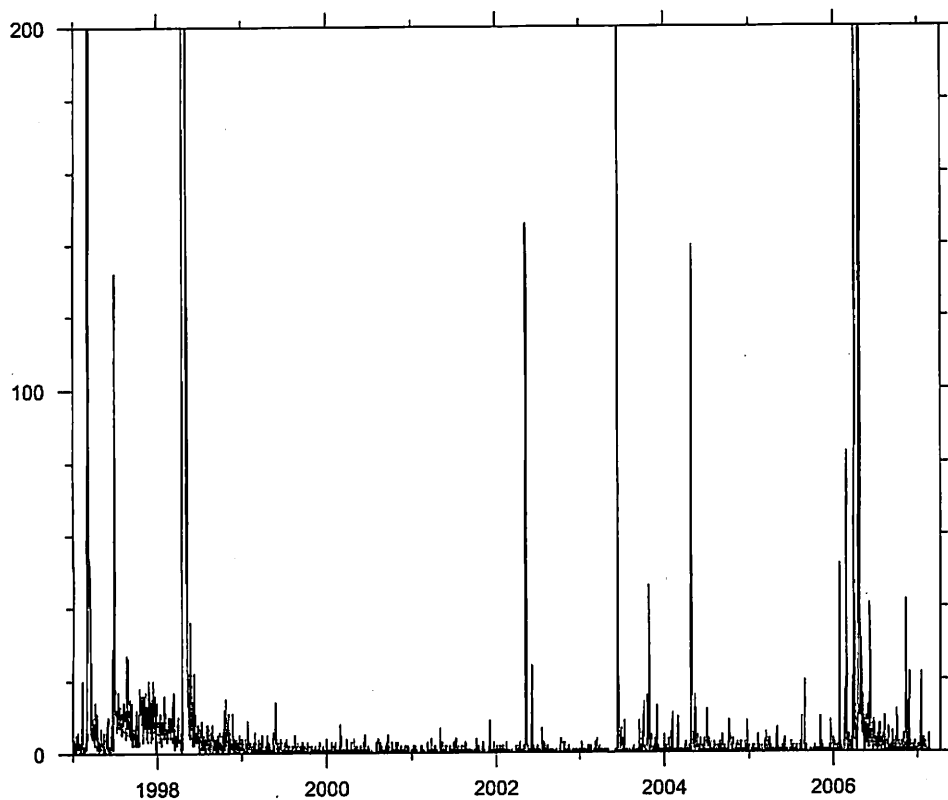
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 22 24:00



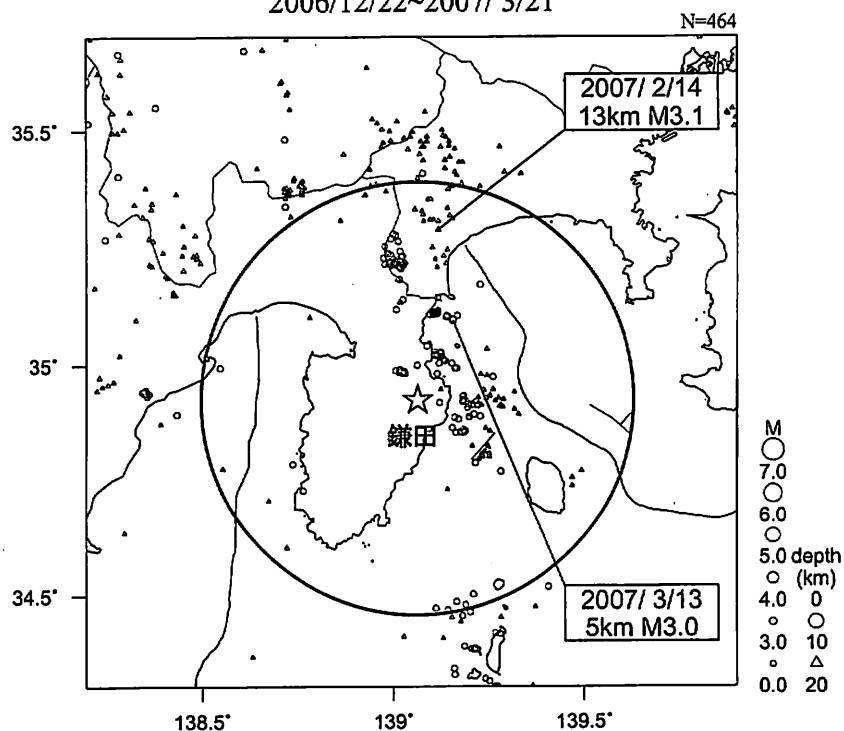
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 22 24:00



# 伊東市鎌田における日別地震回数 1997/ 1/ 1~2007/ 3/21 (S-P≤6秒)



## 震央分布図（最近90日） 2006/12/22~2007/ 3/21



図の円内は鎌田におけるS-P≤6秒の範囲を示す。

\* 吹き出しは、M≥3.0

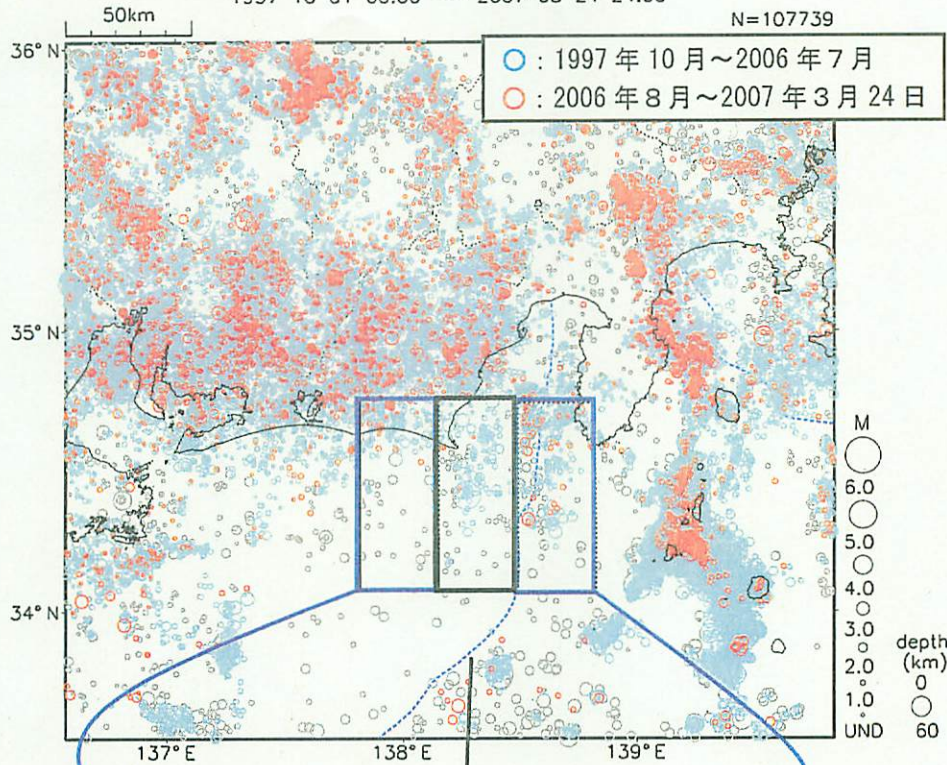


# 御前崎沖の地震活動

震央分布図 (1997 年 10 月以降、M すべて)

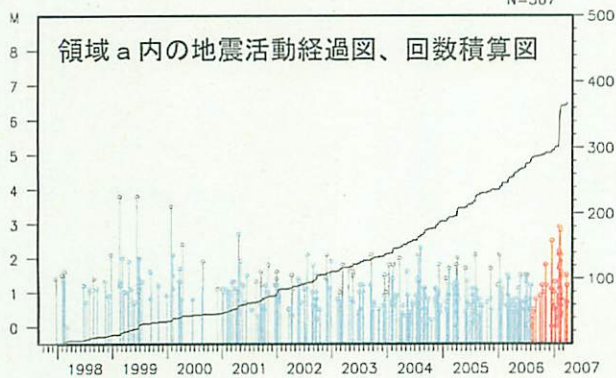
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 24 24:00

N=107739



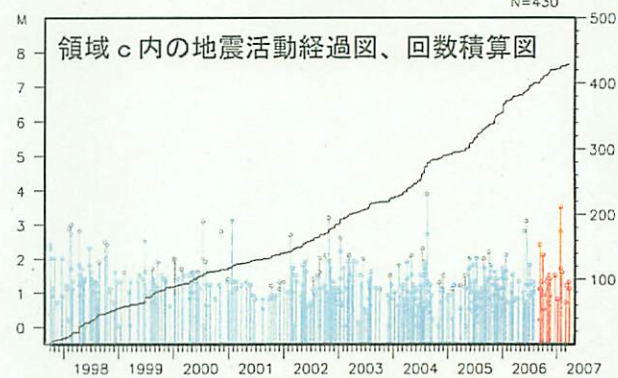
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 24 24:00

N=367



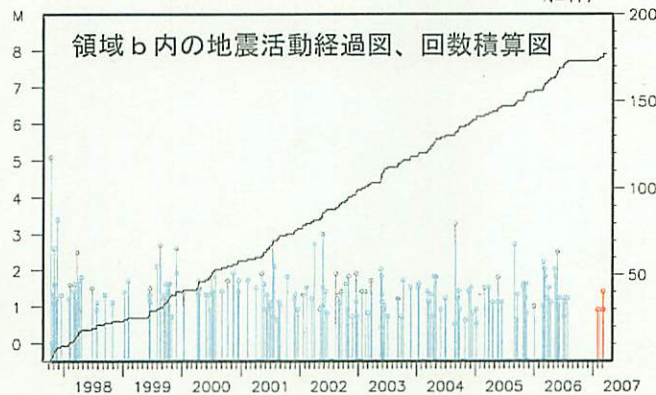
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 24 24:00

N=430



1997 10 01 00:00 -- 2007 03 24 24:00

N=177



# 東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2007年3月21日 現在

|                | ①<br>固着域      |                    | ②<br>愛知県      |                    | ③<br>浜名湖    |              |             | ④<br>駿河湾      |
|----------------|---------------|--------------------|---------------|--------------------|-------------|--------------|-------------|---------------|
|                | 地殻内           | フィリ<br>ピン海<br>プレート | 地殻内           | フィリ<br>ピン海<br>プレート | フィリピン海プレート内 |              |             | 全域            |
|                |               |                    |               |                    | 西側          | 全域           | 東側          |               |
| 短期活動指数         | 6             | 6                  | 5             | 6                  | 4           | 2            | 2           | 3             |
| 短期地震回数<br>(平均) | 9<br>(6.24)   | 8<br>(5.82)        | 16<br>(13.08) | 19<br>(13.98)      | 1<br>(2.38) | 2<br>(5.83)  | 1<br>(3.45) | 4<br>(6.06)   |
| 中期活動指数         | 5             | 6                  | 5             | 7                  | 1           | 0            | 2           | 4             |
| 中期地震回数<br>(平均) | 22<br>(18.73) | 22<br>(17.45)      | 43<br>(39.23) | 53<br>(41.94)      | 1<br>(4.76) | 4<br>(11.66) | 3<br>(6.90) | 11<br>(12.12) |

\*Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

\*クラスタ除去：

震央距離が $\Delta r$ 以内、発生時間差が $\Delta t$ 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

\*対象期間：

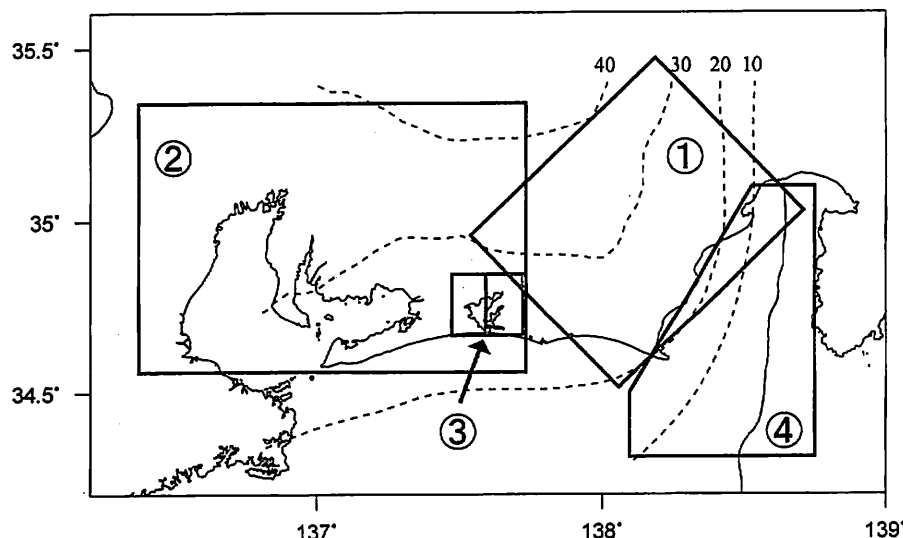
短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

\*基準期間：

1997年—2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年—2000年（3年間）：浜名湖

、1991年—2000年（10年間）：駿河湾



\*プレート境界の等深線を波線で示す。

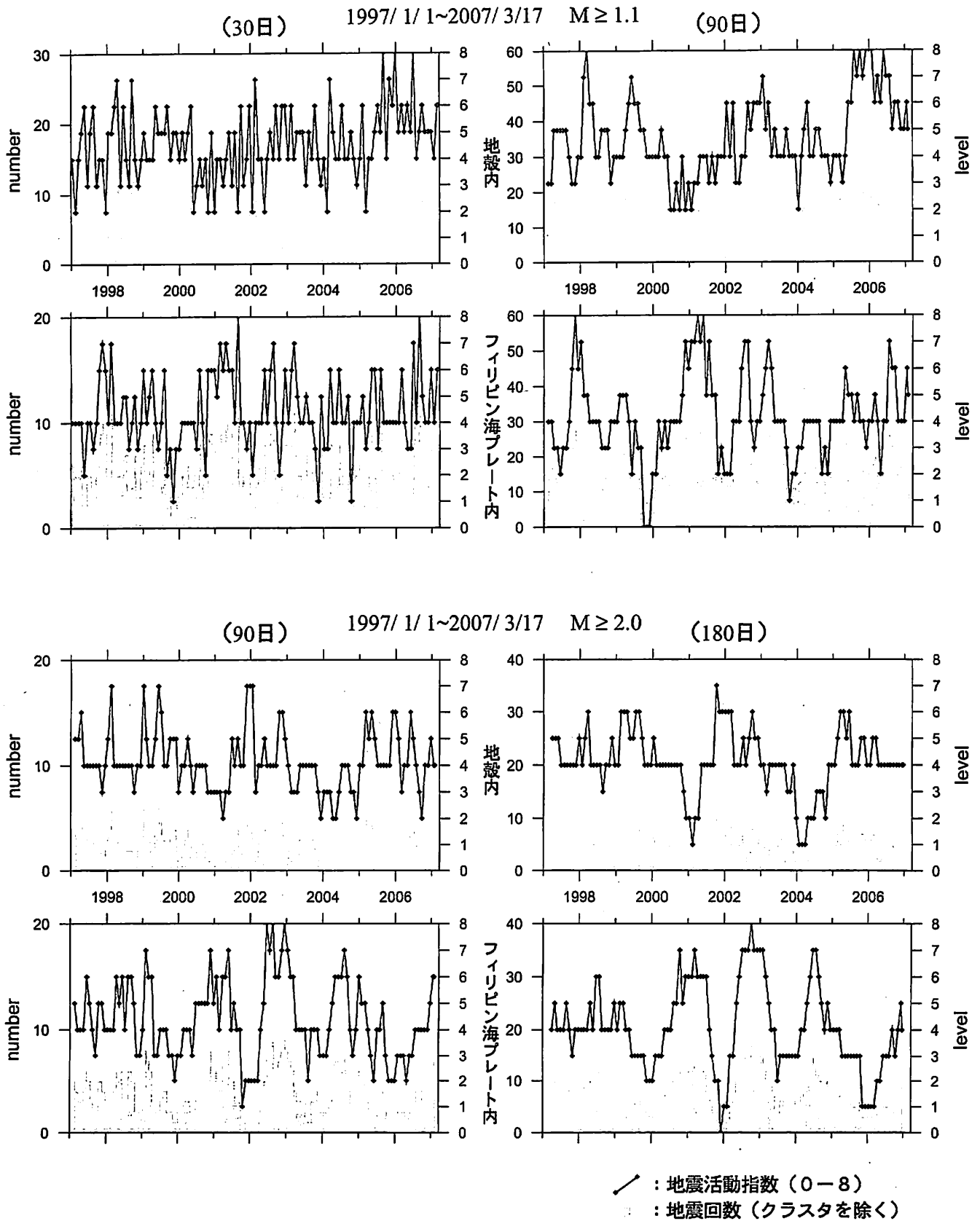
注：今回から愛知県領域を西に拡大。

| 地震回数の指数化 |           |     |
|----------|-----------|-----|
| 指数       | 確率<br>(%) | 地震数 |
| 8        | 1         | 多   |
| 7        | 4         | ↑   |
| 6        | 10        |     |
| 5        | 15        |     |
| 4        | 40        | 平常  |
| 3        | 15        |     |
| 2        | 10        |     |
| 1        | 4         | ↓   |
| 0        | 1         | 少   |



# 地震活動指数の推移

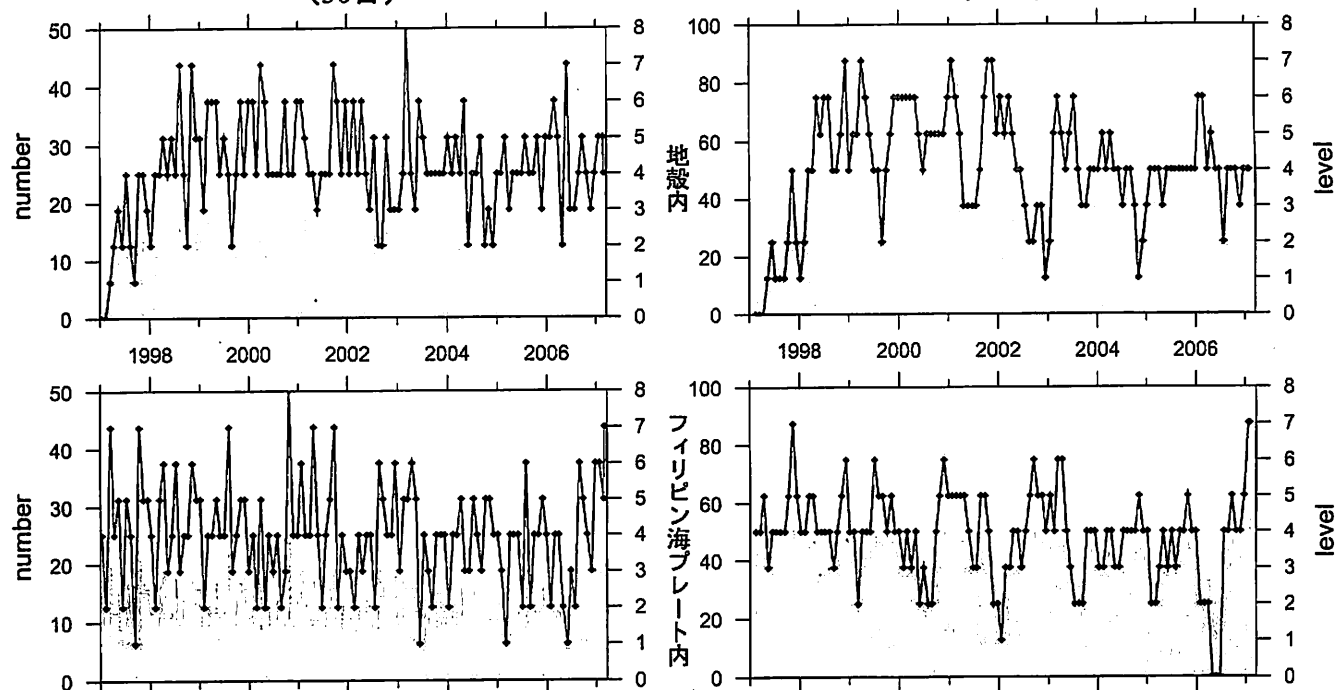
## ① 固着域



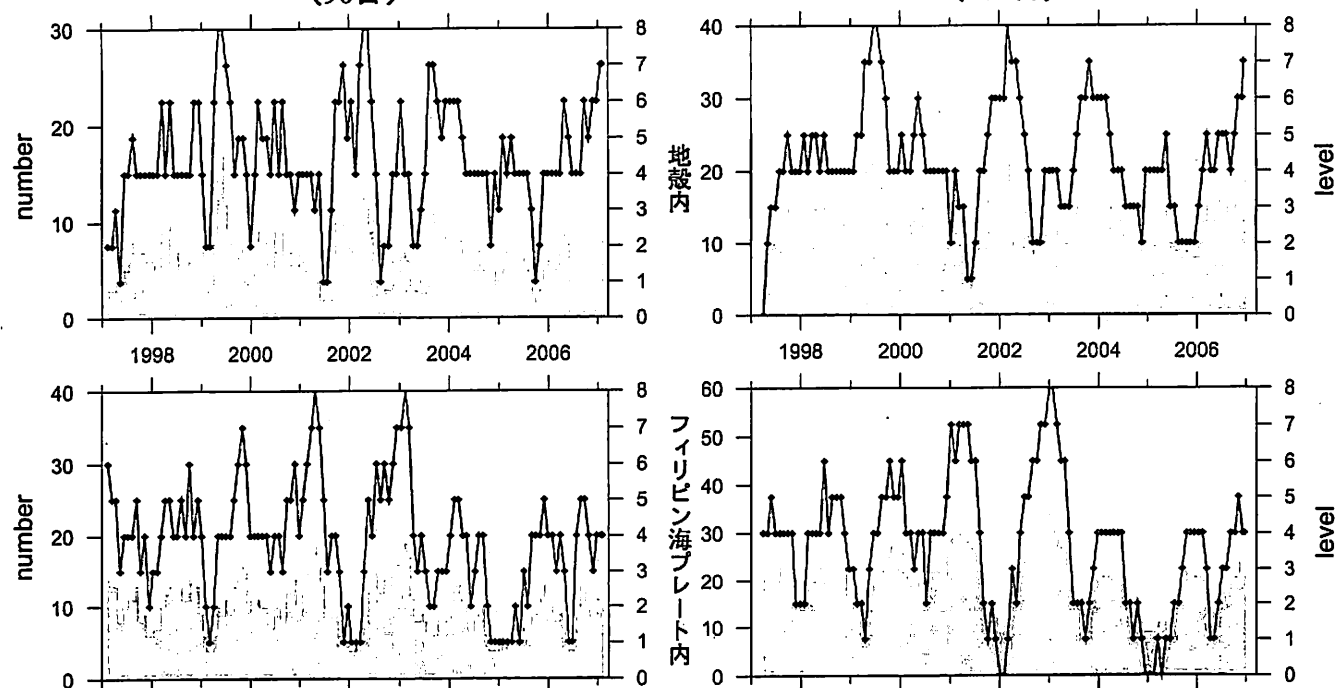
# 地震活動指数の推移

## ② 愛知県

(30日) 1997/ 1/ 1~2007/ 3/17 M ≥ 1.1 (90日)



(90日) 1997/ 1/ 1~2007/ 3/17 M ≥ 2.0 (180日)

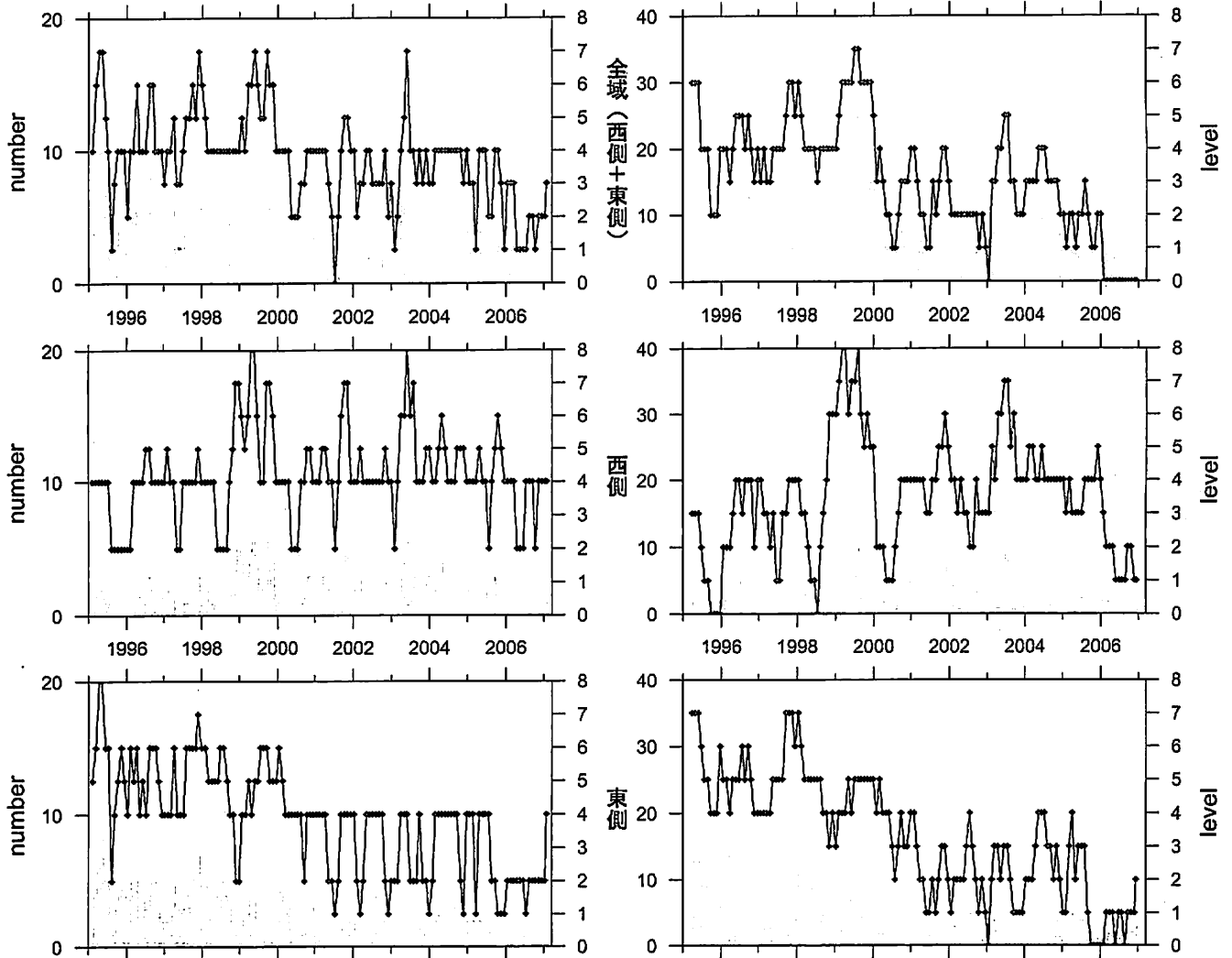


／ : 地震活動指数 (0-8)  
 ・ : 地震回数 (クラスタを除く)

## 地震活動指数の推移

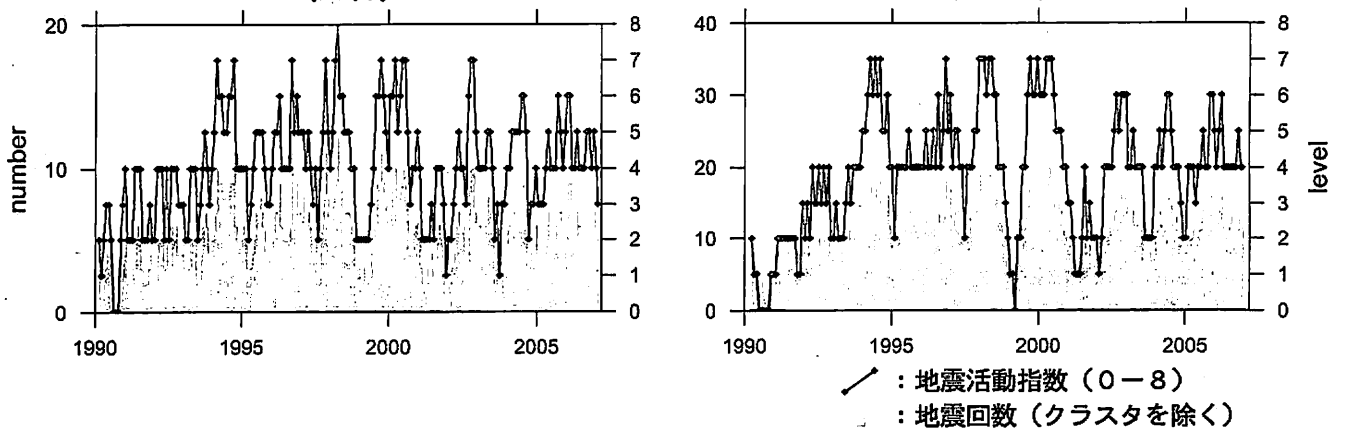
### ③ 浜名湖

(90日) 1995/ 1/ 1~2007/ 3/17  $M \geq 1.1$  (180日)



### ④ 駿河湾

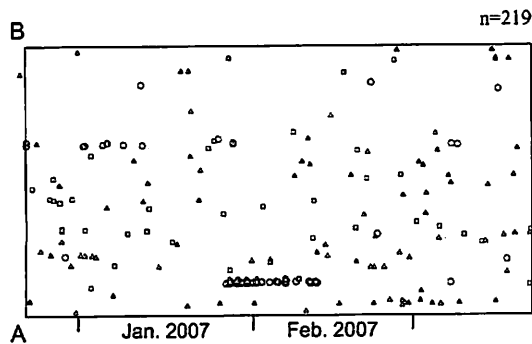
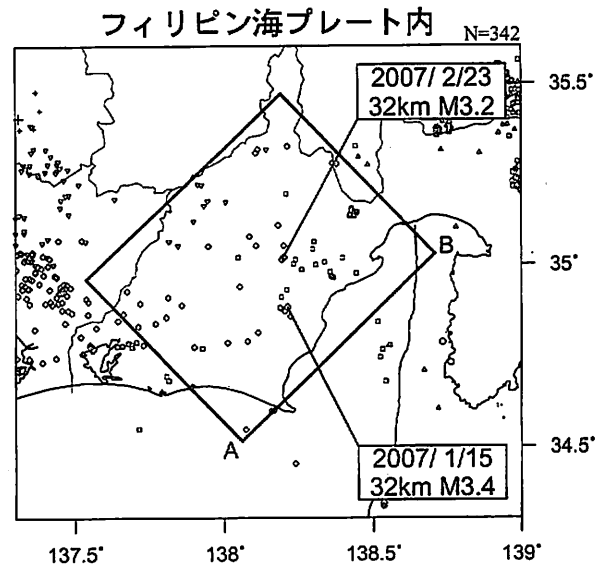
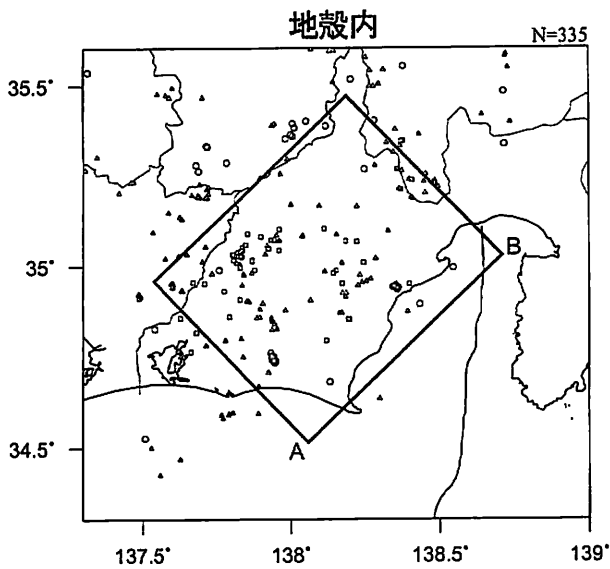
(90日) 1990/ 1/ 1~2007/ 3/17  $M \geq 1.4$  (180日)



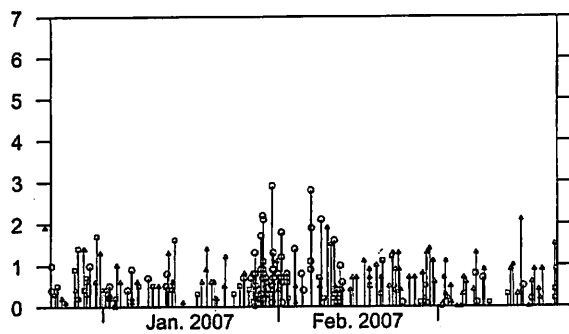
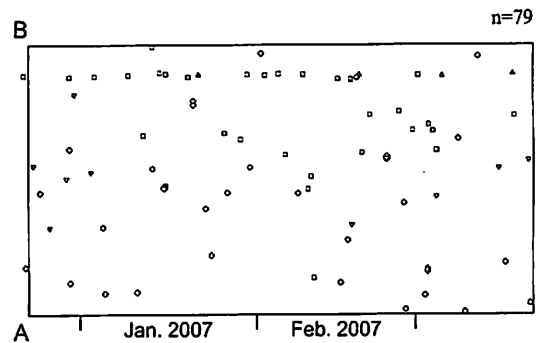
— : 地震活動指数 (0-8)  
 . : 地震回数 (クラスタを除く)

# 固着域（最近90日）

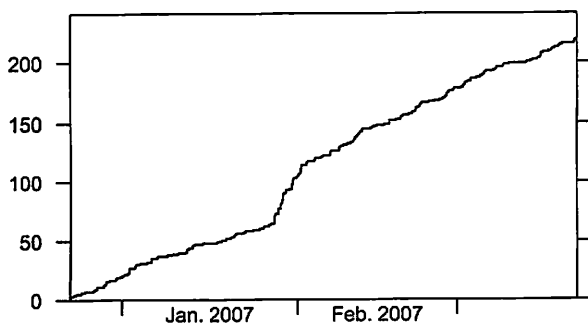
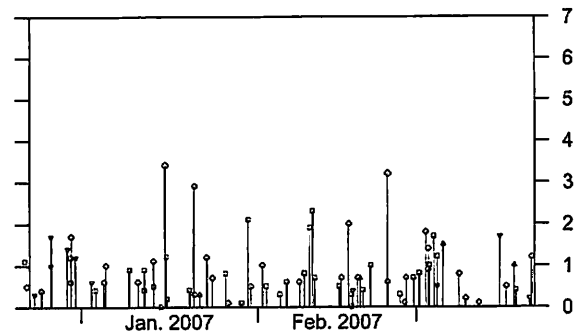
2006/12/22~2007/ 3/21 M ≥ 0.0 0 ≤ 深さ(km) ≤ 60



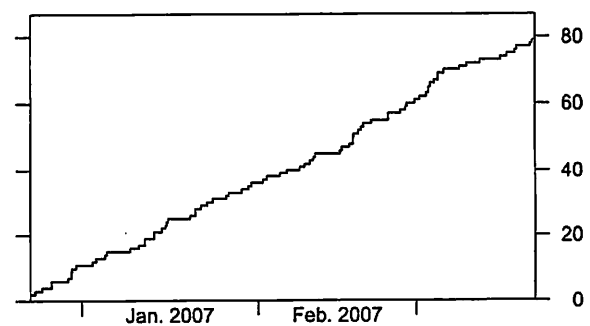
時空間分布図 (A-B方向)



地震活動経過図 (規模別)



地震回数積算図



\* 吹き出しはM ≥ 3.0

地殻内では1月末から2月前半にかけて静岡県西部でまとまった活動があった。

プレート内は3月に入ってからはやや低調。

気象庁作成

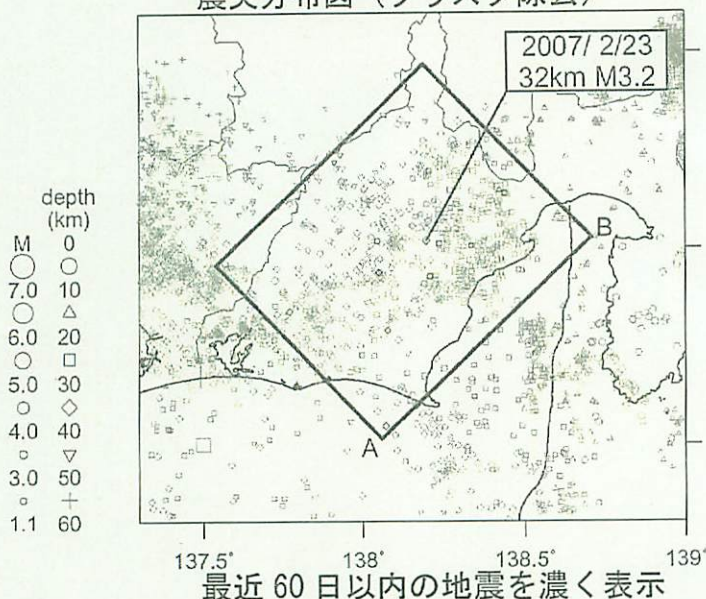


# 固着域（フィリピン海プレート内）

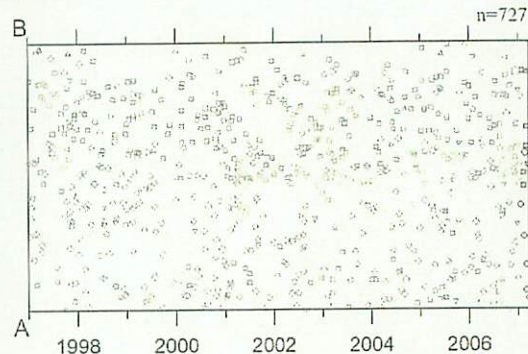
1997/1/1～2007/3/21

[M1.1 以上]

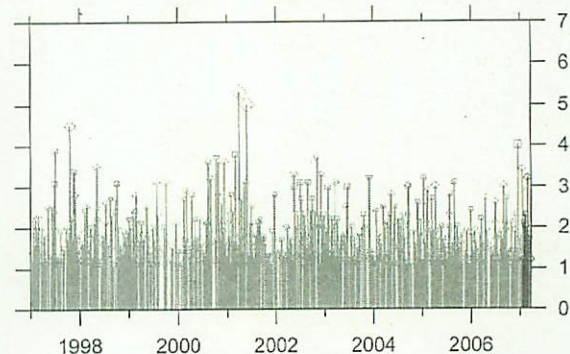
震央分布図（クラスタ除去）



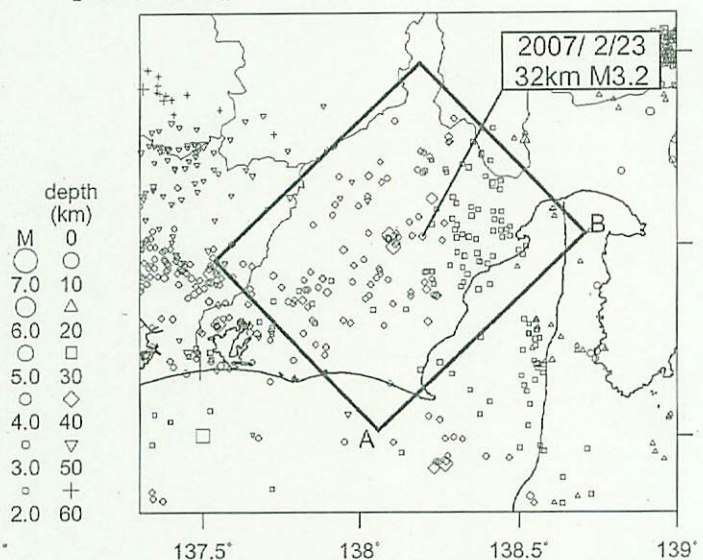
時空間分布図（A B 方向）



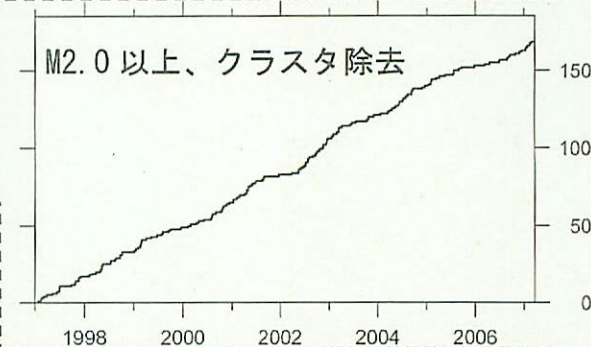
地震活動経過図（規模別）



[M2.0 以上]



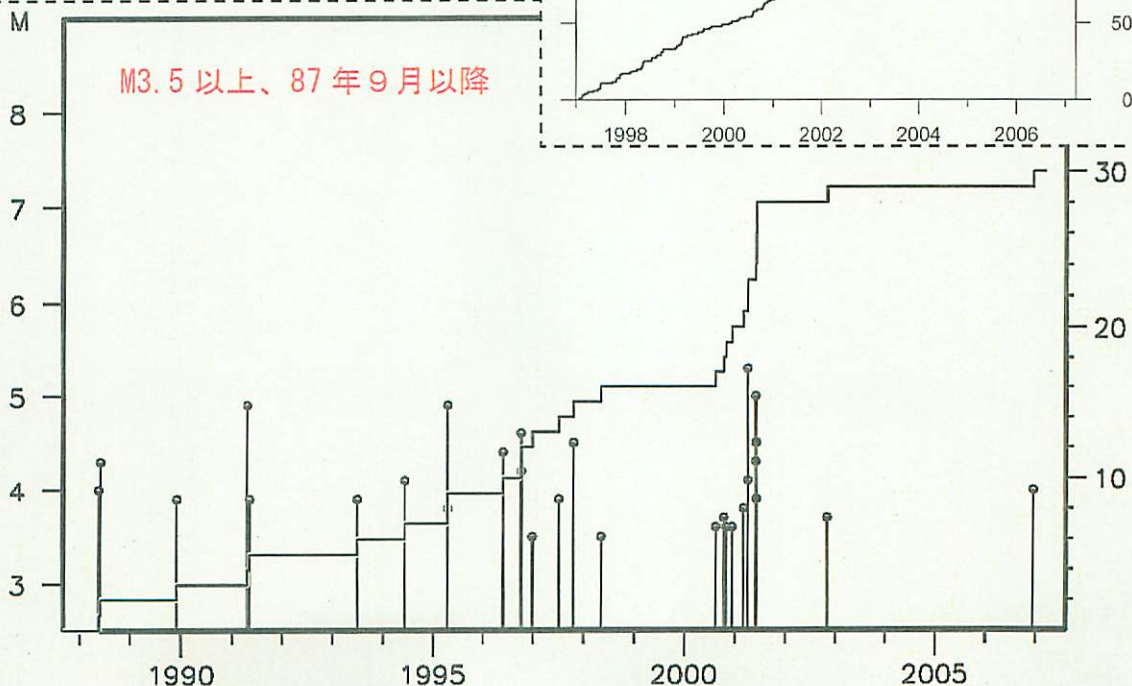
地震回数積算図



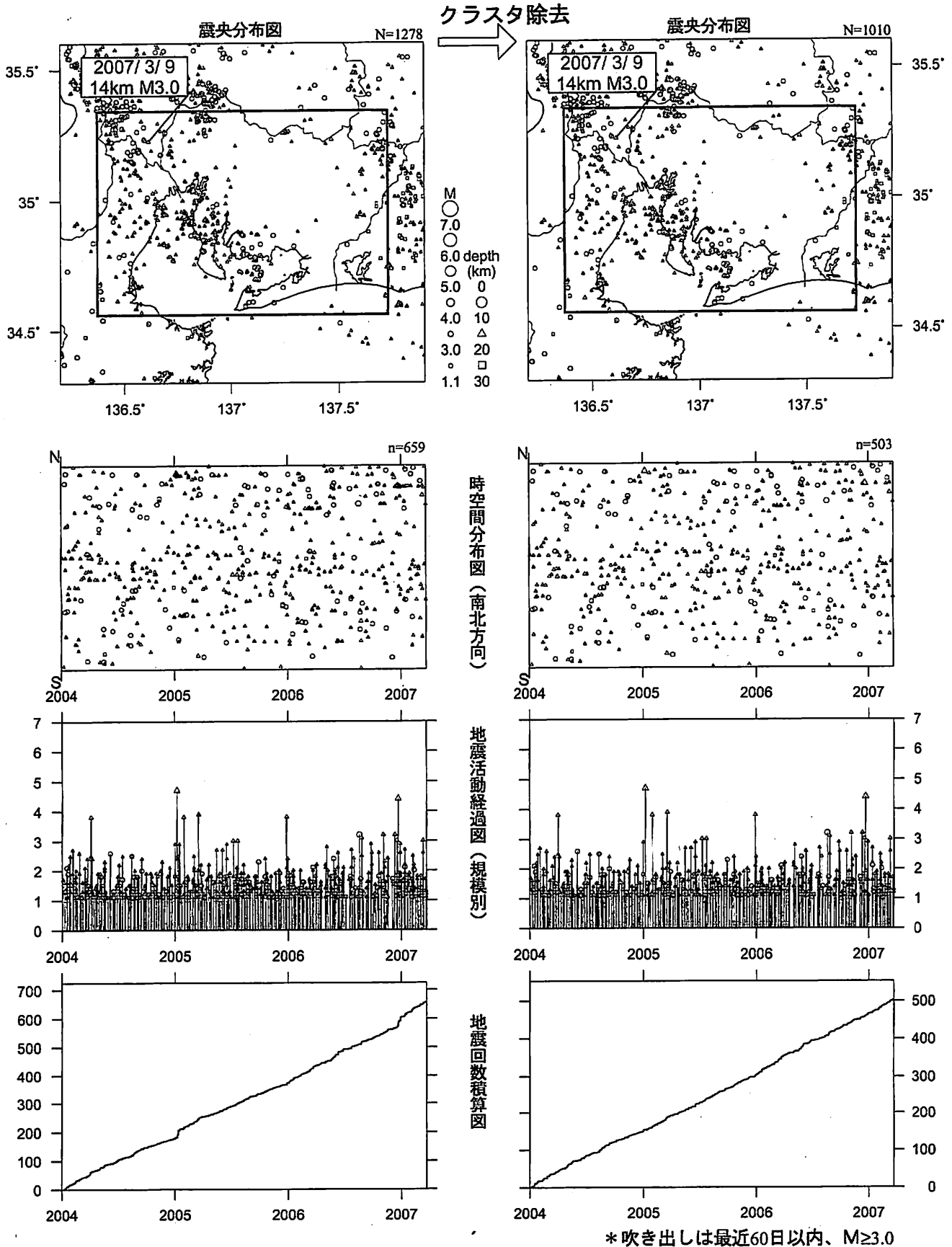
[M3.5 以上]

2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数が少ない。そのような状況の中、2006 年 12 月 16 日に M4.0 が発生した。98 年後半～2000 年前半にも静穏な時期があった。M2.0 以上では、2005 年半ば以降やや静穏であったが最近はやや回復傾向。

M3.5 以上、87 年 9 月以降



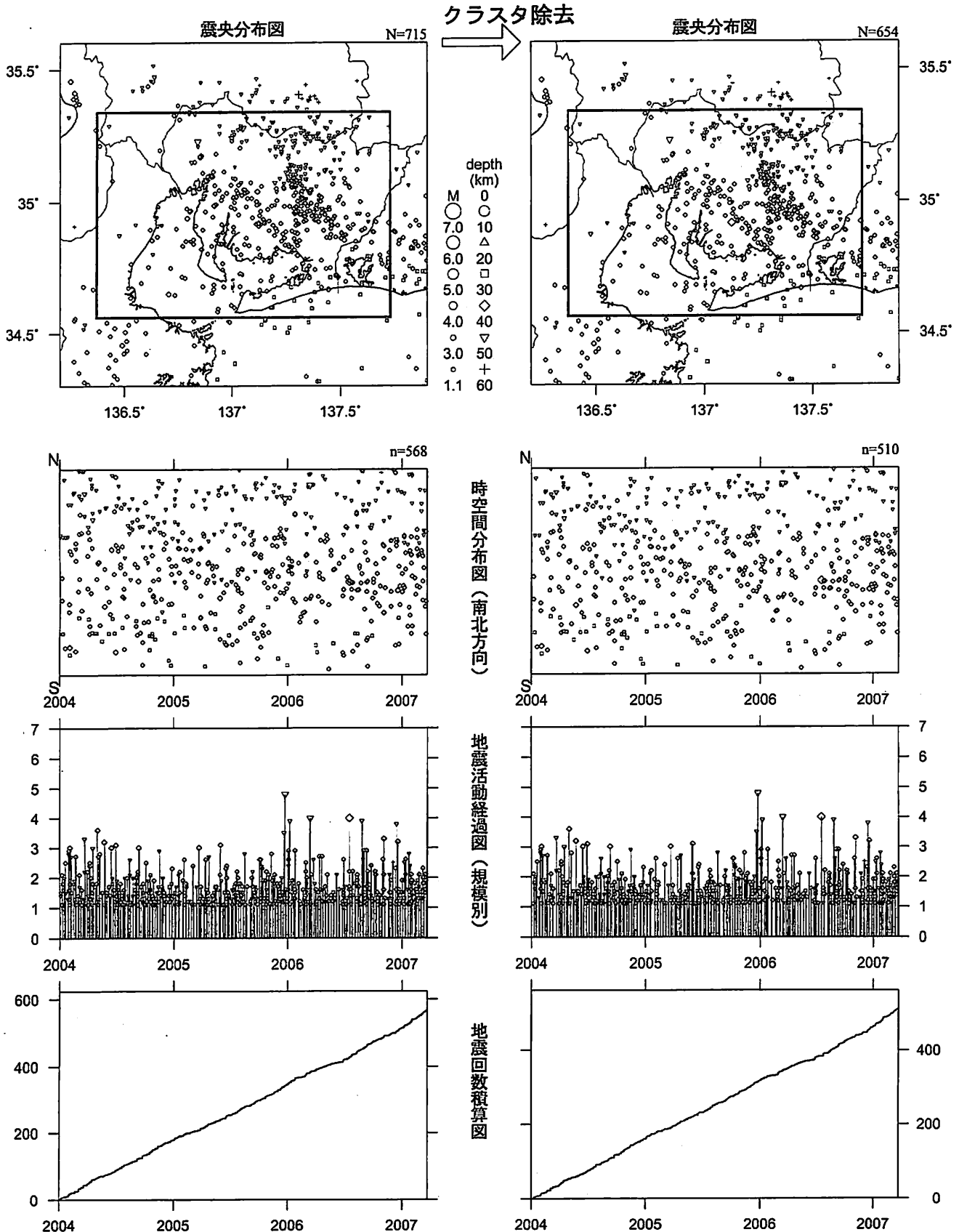
愛知県（地殻内）  
2004/1/1~2007/3/21 M $\geq$ 1.1



今回から愛知県領域を西に拡大。特に変化はない。

# 愛知県（フィリピン海プレート内）

2004/1/1~2007/3/21 M $\geq$ 1.1

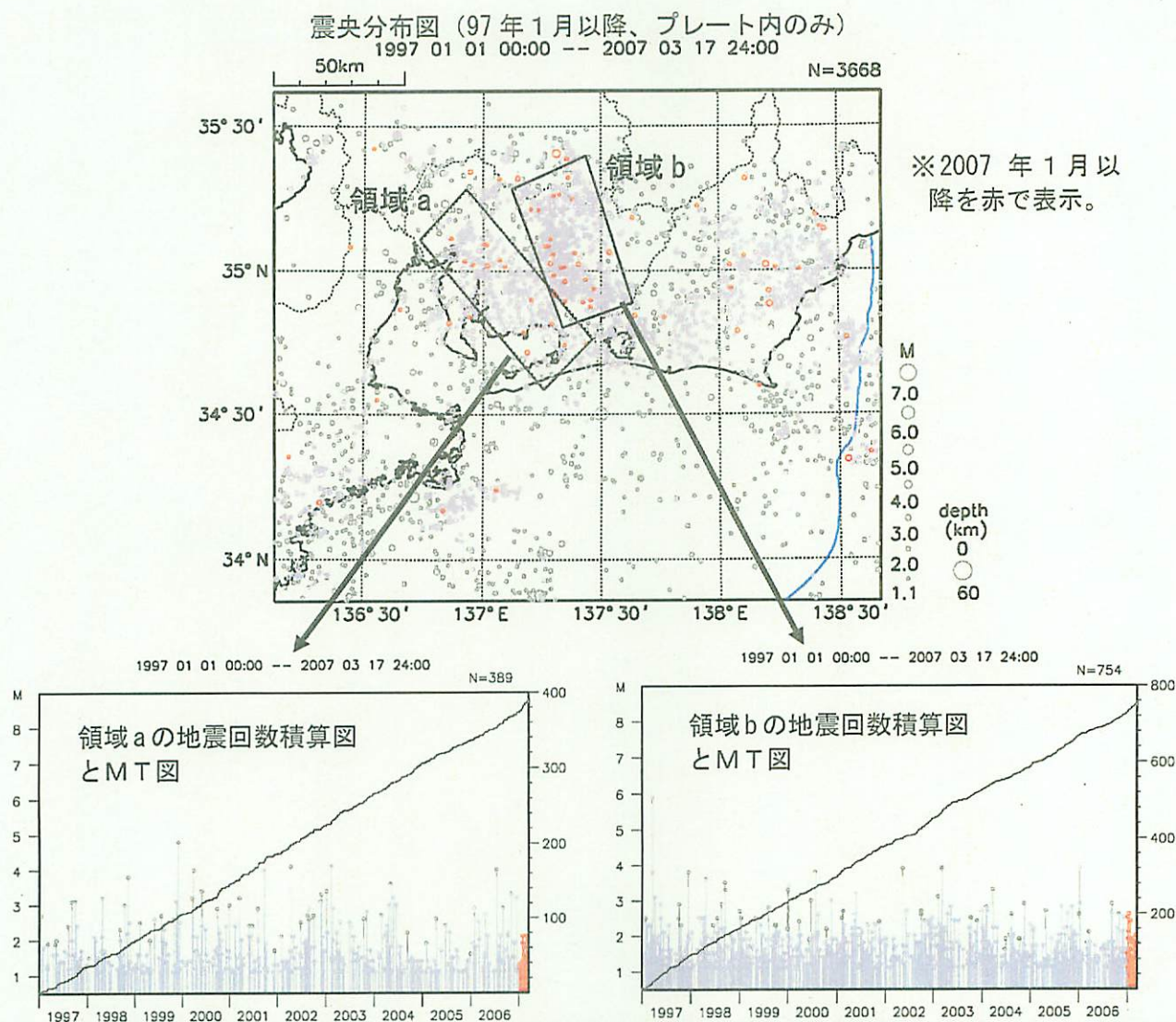


\* 吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0

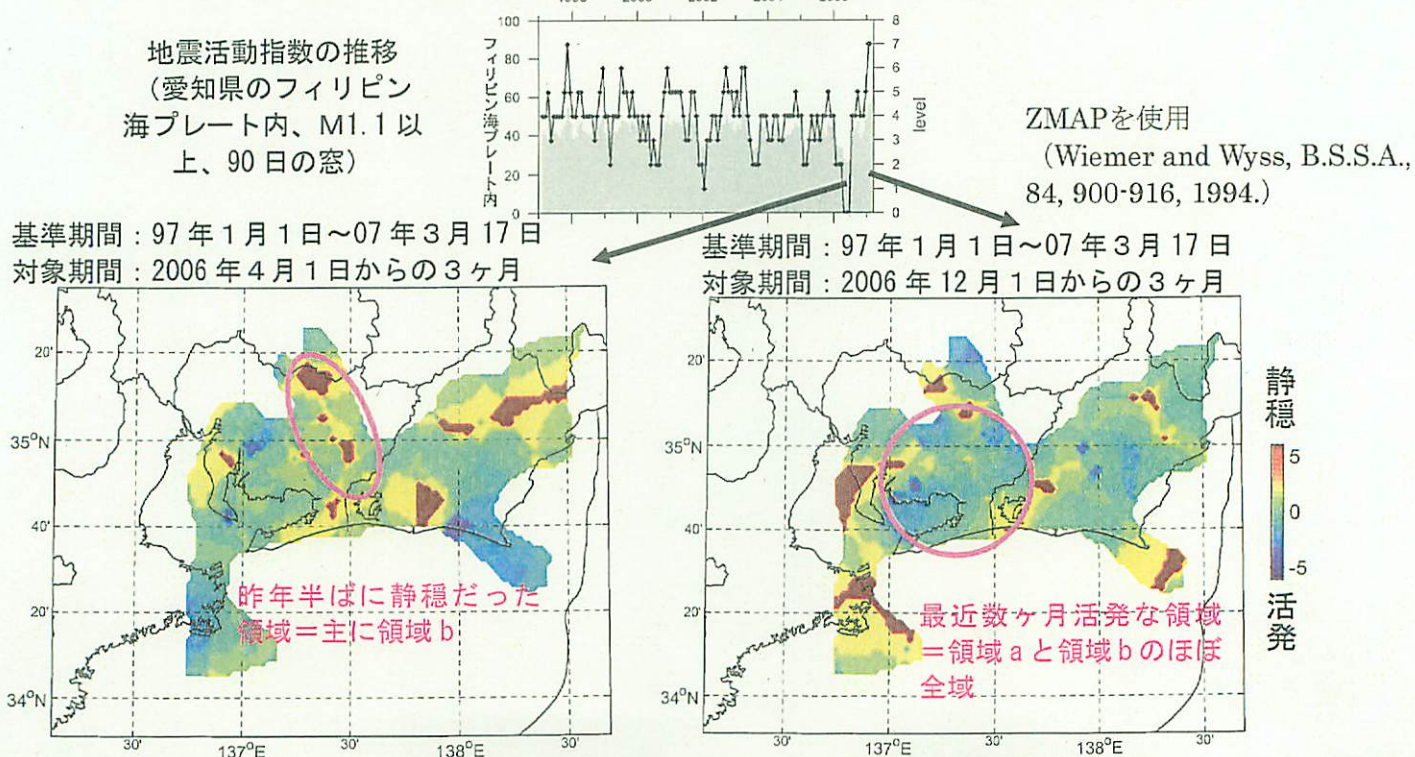
2007年に入ってから地震活動はやや活発になっている。  
 揺らぎかどうか、今後の推移を見る必要がある。



## 愛知県フィリピン海プレート内の地震活動 (M1.1 以上)

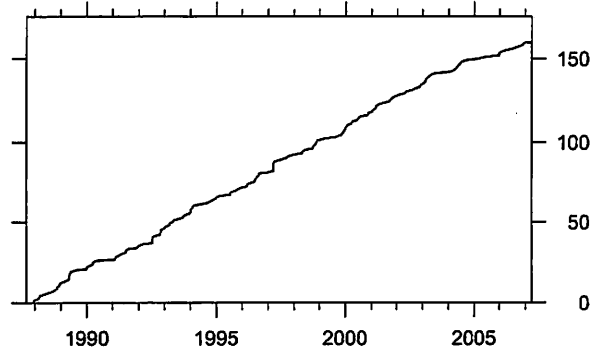
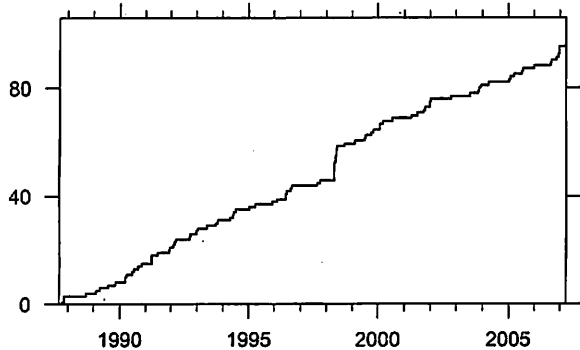
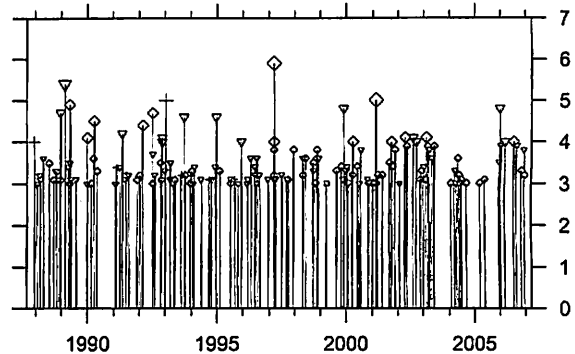
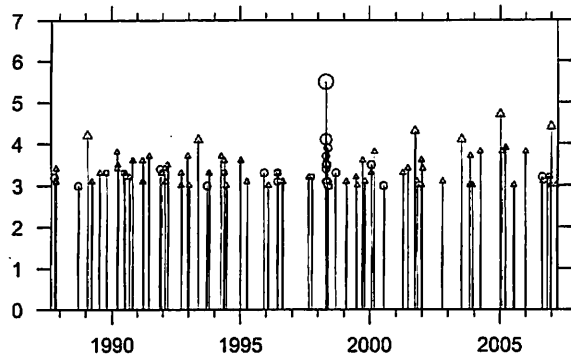
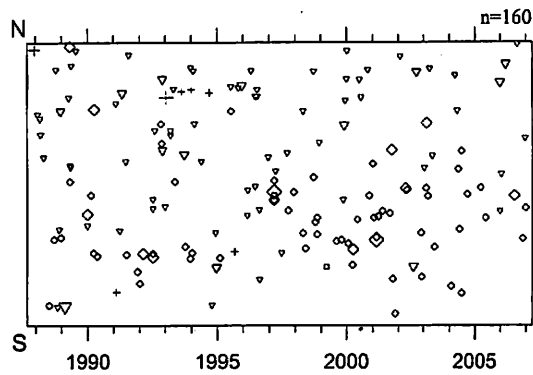
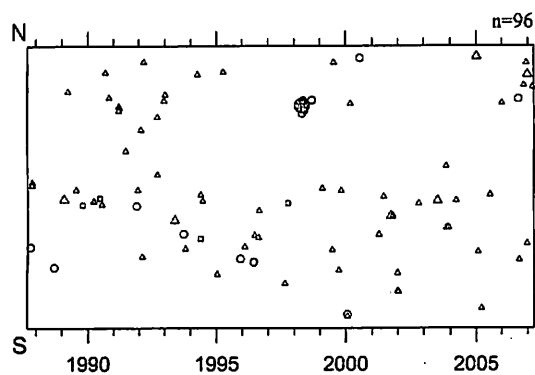
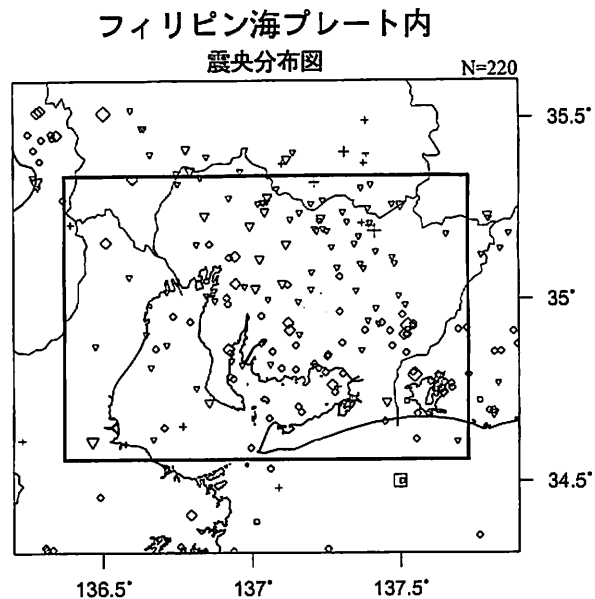
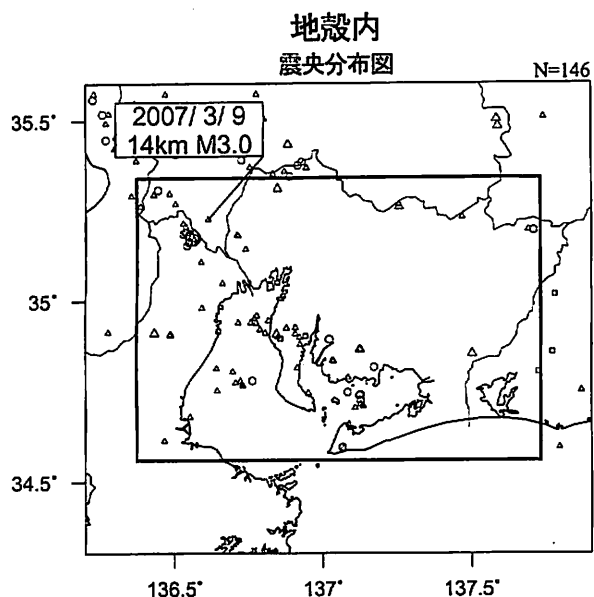


2007 年に入ってから愛知県フィリピン海プレート内でM1.1 以上の微小地震活発化が見られる。特に集中的に発生している場所はなく、愛知県フィリピン海プレート内のほぼ全域でぽつぽつと地震が発生している状況。一方、2006 年半ばに見られた静穏化は、愛知県中部～東部の地震活動領域（領域 b）が主であった。





愛知県（長期）  
1987/9/1~2007/3/21 M $\geq$ 3.0



\* 吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0  
フィリピン海プレート内では2003年もしくは2004年以降地震活動が低調。  
現在は回復傾向。

# 浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1 ~ 2007/ 3/ 21 M ≥ 1.1

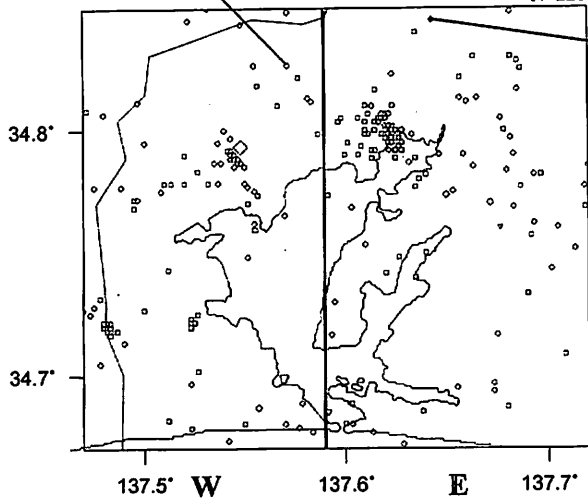
\* クラスタ除去したデータ

2006/12/26  
36km M1.1

震央分布図

N=226

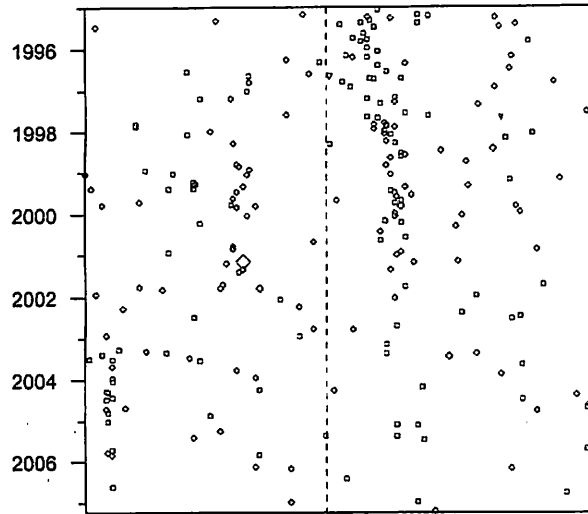
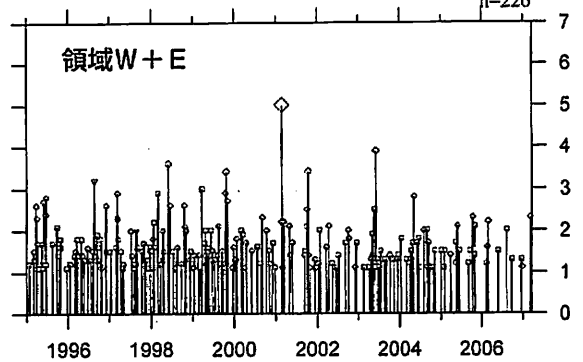
2007/3/7  
36km M2.3



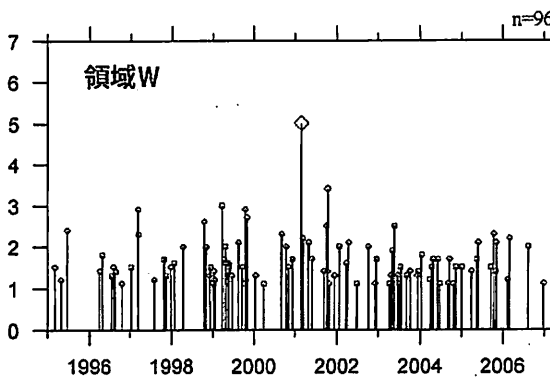
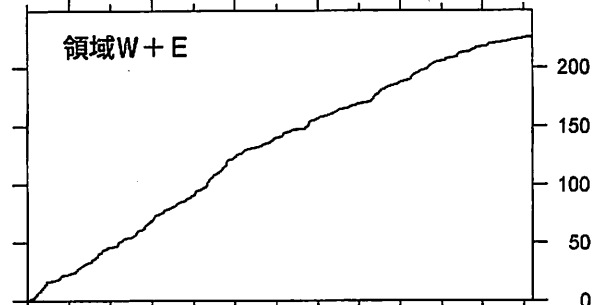
depth  
(km)  
M  
0  
7.0  
10  
6.0  
20  
5.0  
30  
4.0  
40  
3.0  
50  
1.1  
60

地震活動経過図 (規模別)

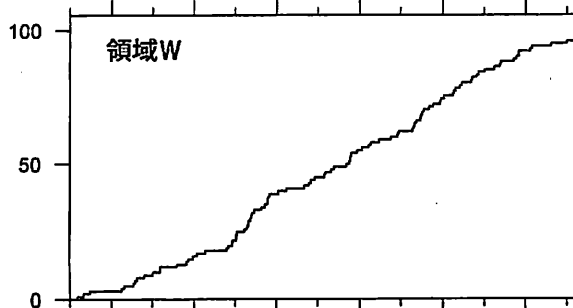
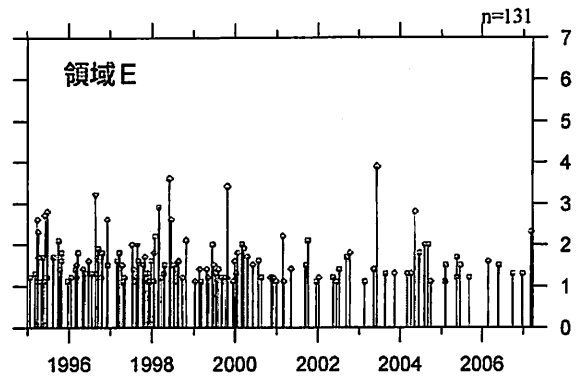
n=226



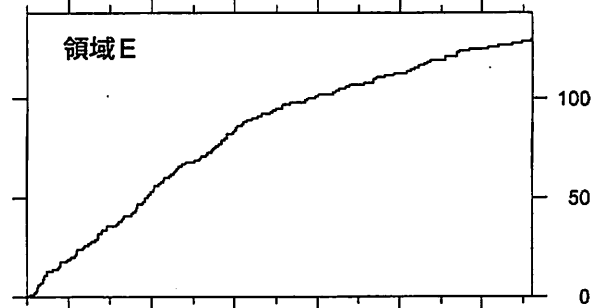
地震回数積算図



地震活動経過図 (規模別)



地震回数積算図



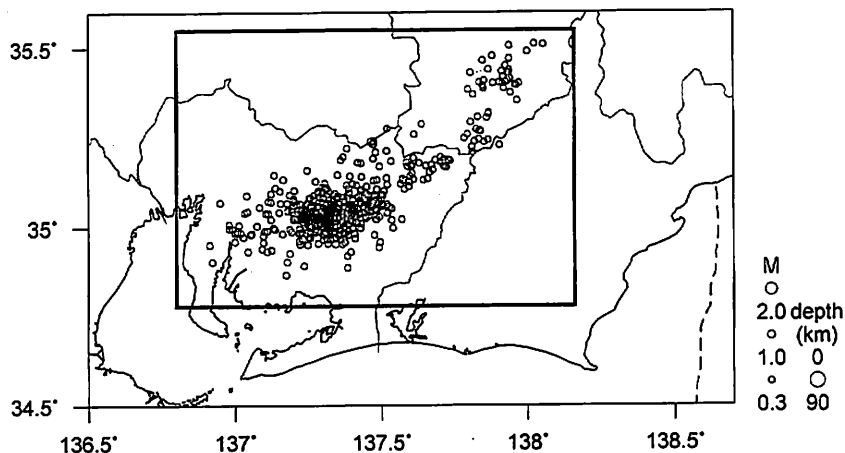
2000年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下した状態が継続している。西側もここ数ヶ月はやや静かになっている。

# 低周波地震活動とスロースリップ

2000/1/1~2007/3/21 M $\geq$ 0.3

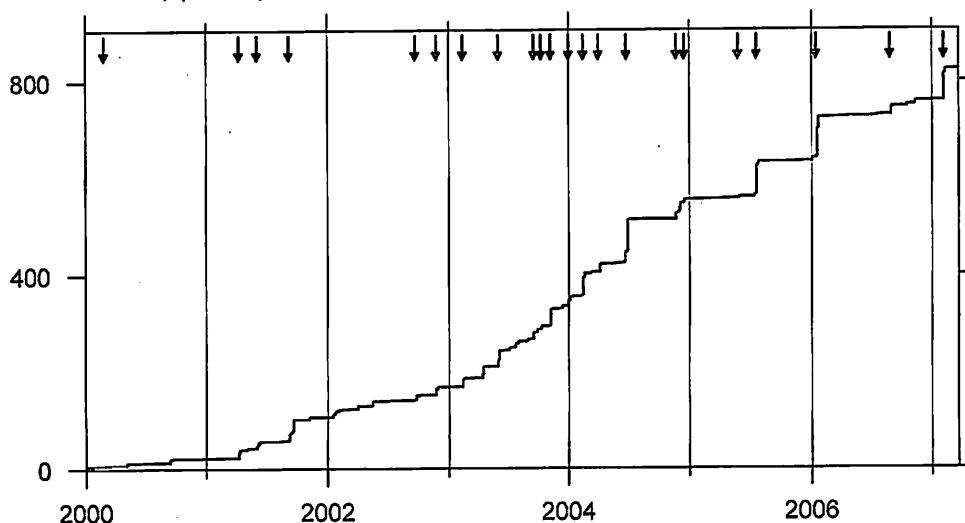
低周波地震の震央分布図

N=823

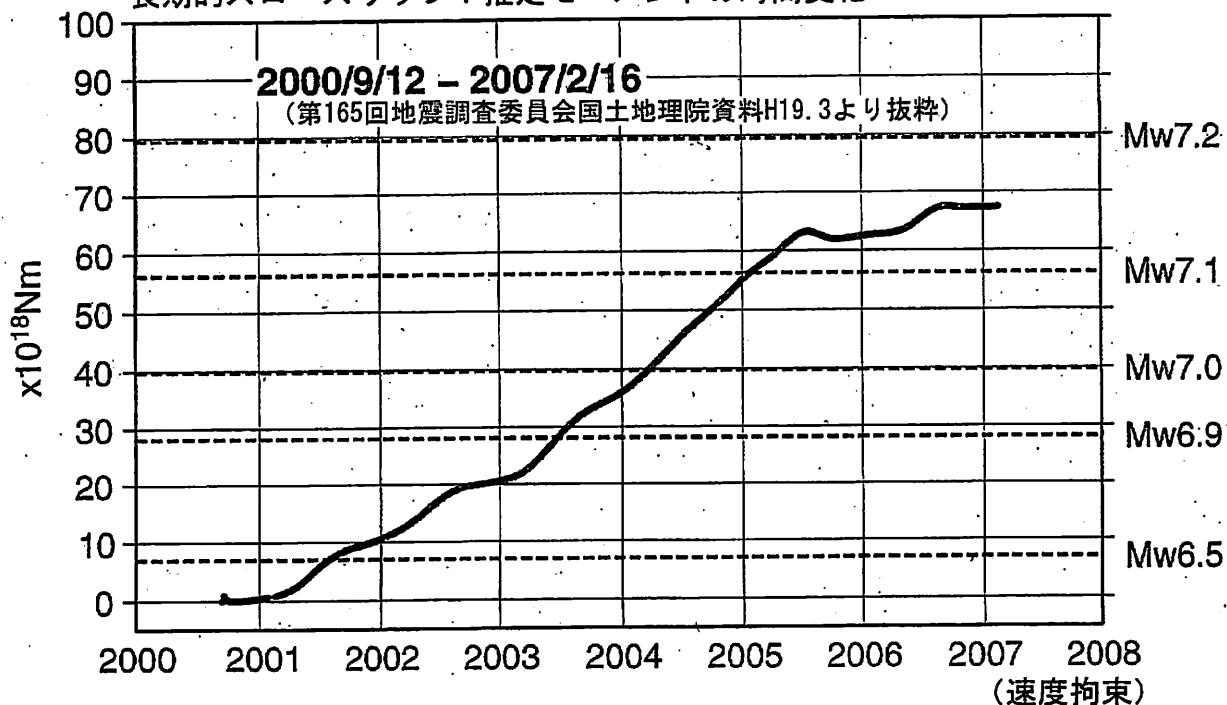


矩形内の地震回数積算図

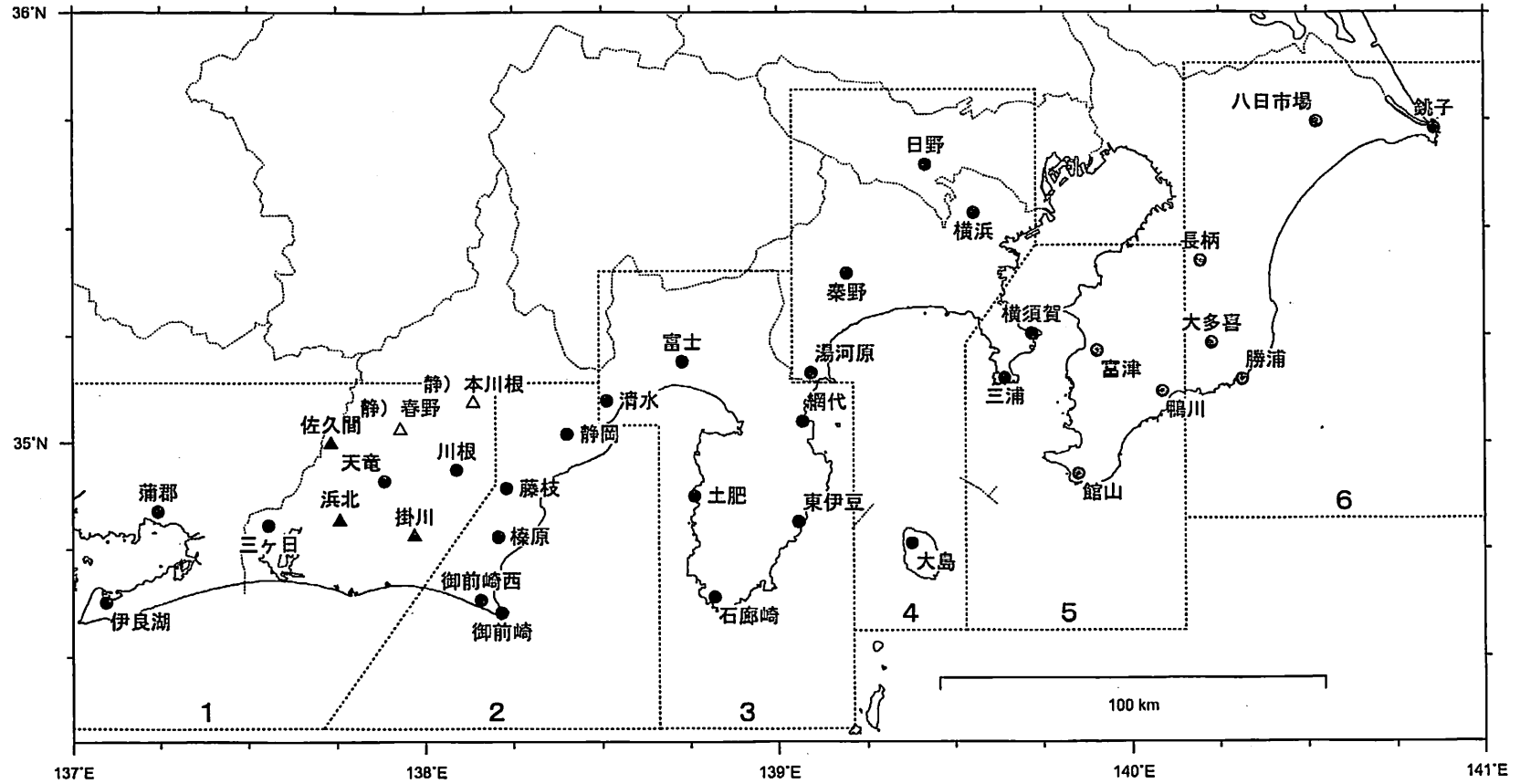
(↓: 短期的スロースリップイベントによる歪変化が見られた時期)



長期的スロースリップ: 推定モーメントの時間変化



2007年2月5日頃から2月9日頃にかけて、低周波地震活動の活発化と短期的スロースリップの発生が観測された。



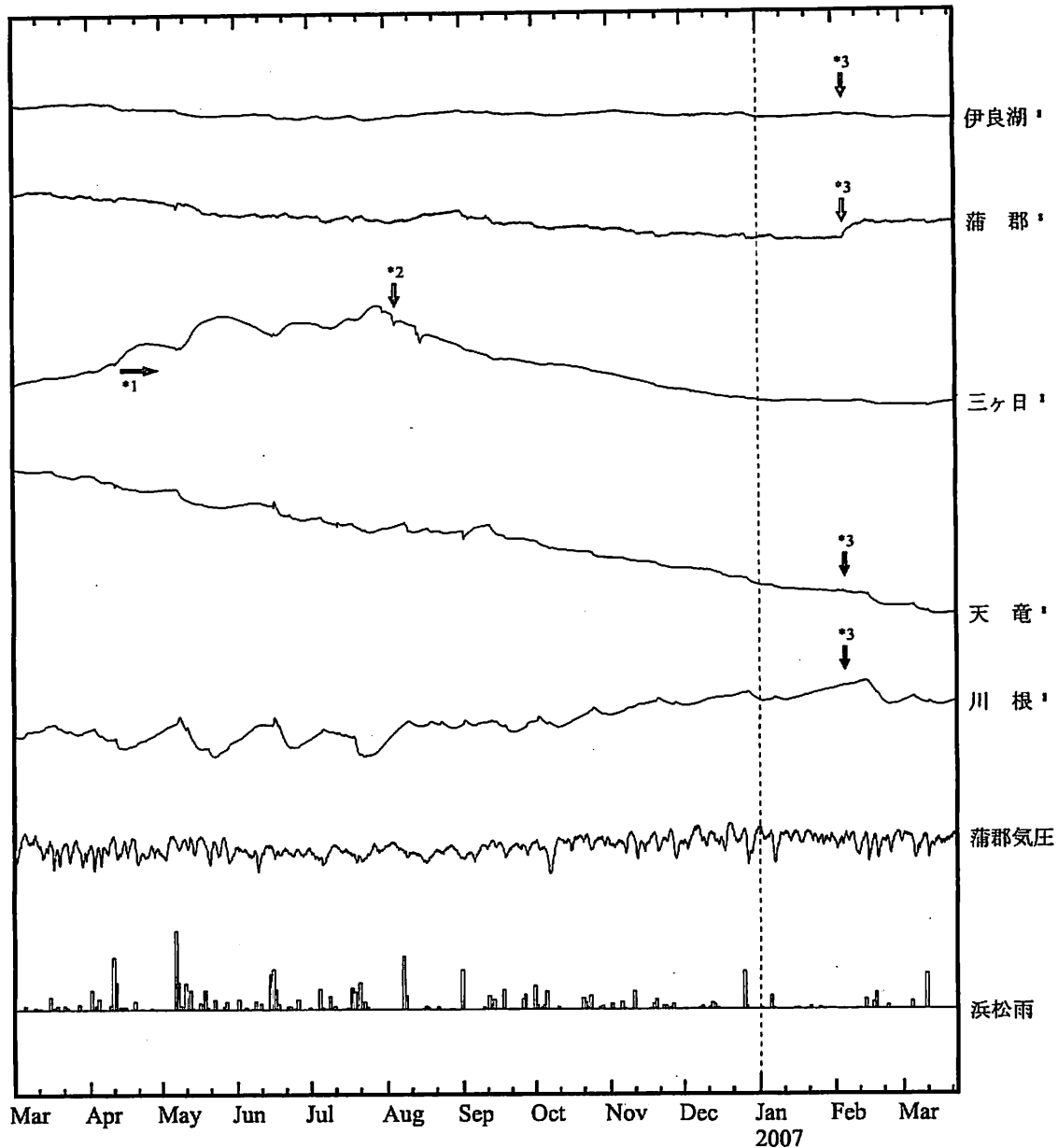
- : 体積歪計  
▲ : 多成分歪計  
△ : 多成分歪計 (静岡県整備)



# 地殻体積歪変化 時間値 (第1区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



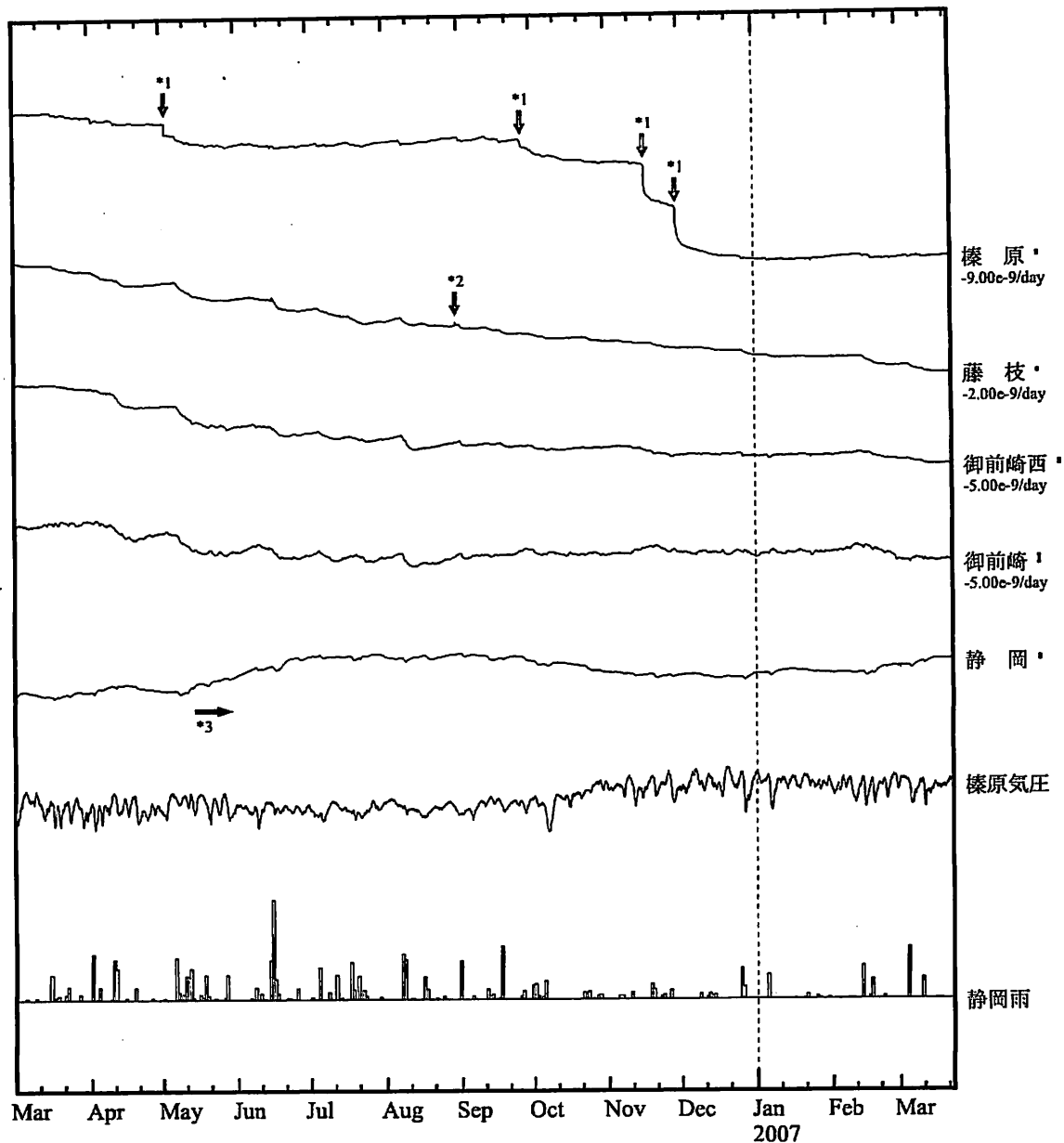
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- \*1 : 三ヶ日で降水に伴う局所的な変化が見られた。
- \*2 : 三ヶ日で2006年8月頃に見られる縮みとその後の回復の変化は、毎年夏に見られるものである。
- \*3 : 伊良湖、蒲郡、天竜及び川根で2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。

# 地殻体積歪変化 時間値 (第2区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



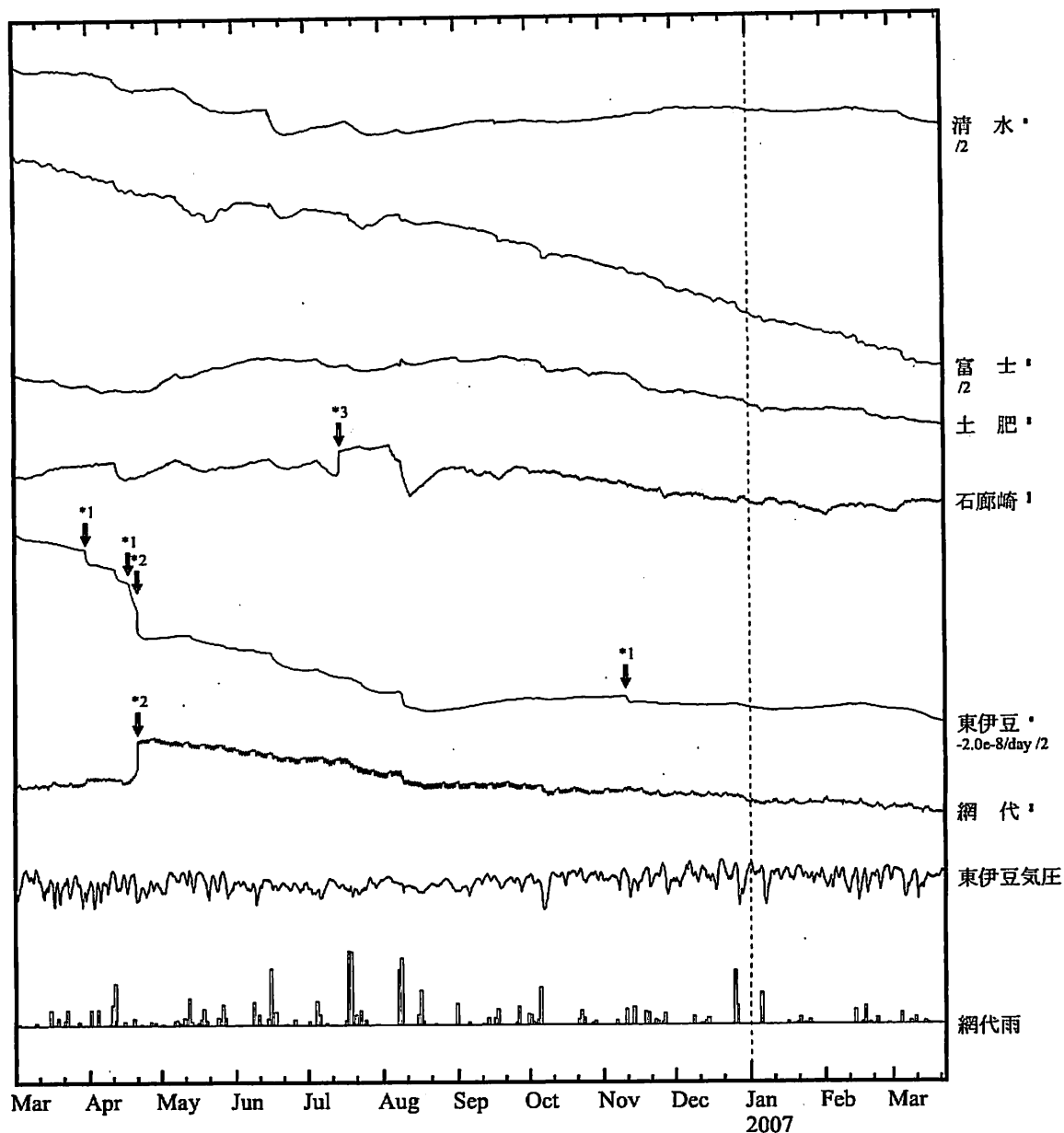
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- \*1 : 榑原で2006年5月3日、9月26日、11月16日及び11月29日に局所的な変化が見られた。
- \*2 : 藤枝で2006年8月30日に局所的な変化が見られた。
- \*3 : 静岡の2006年5月以降の伸び変化とその後の縮み変化は、例年見られるものである。

# 地殻体積歪変化 時間値 (第3区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



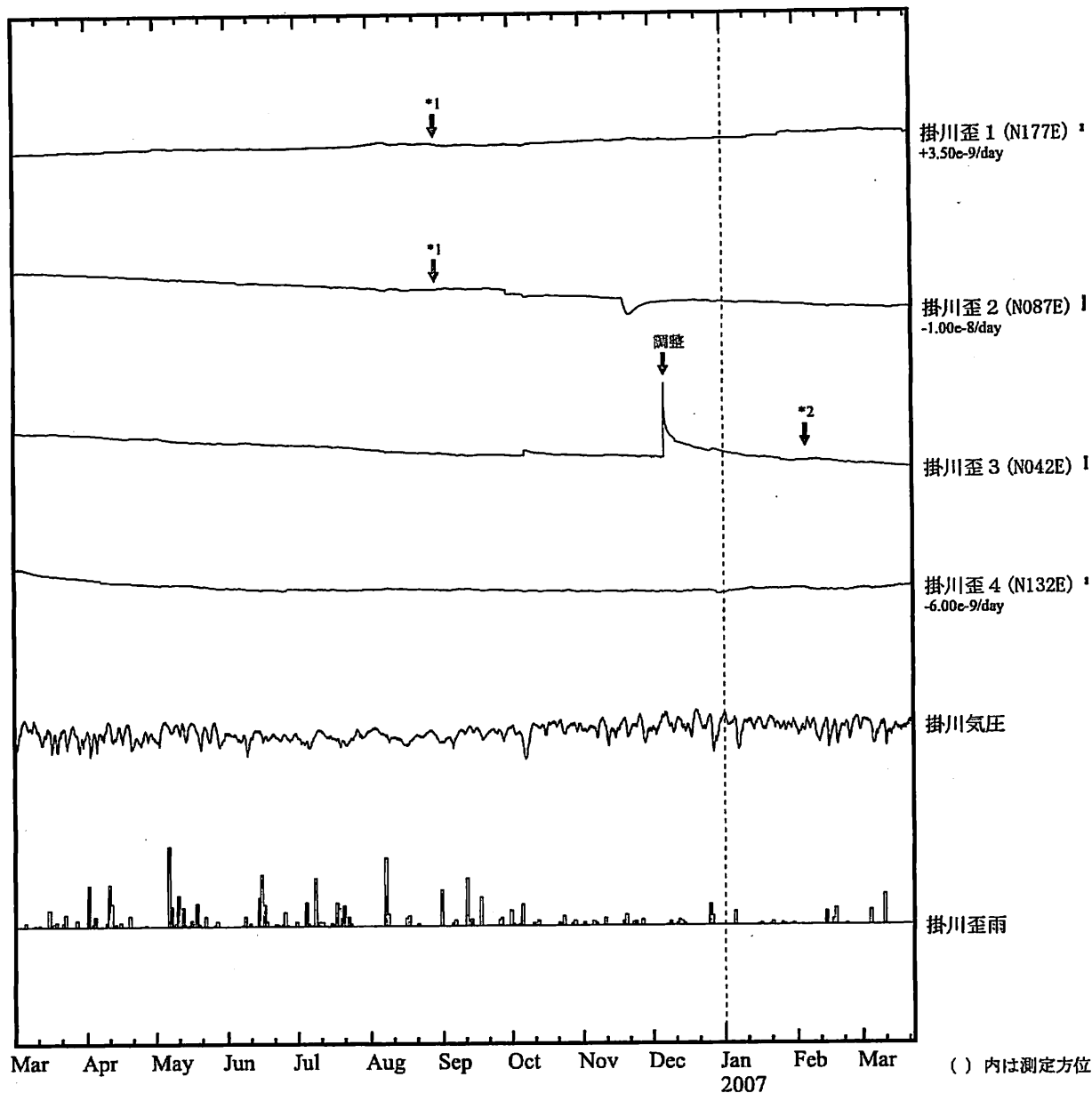
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- \*1: 東伊豆で2006年3月30日から、4月17日から及び11月10日から伊豆半島東方沖の地震活動に伴う縮み変化が見られた(第240回、第246回判定会委員打合せ会資料参照)。
- \*2: 東伊豆及び網代で2006年4月21日に伊豆半島東方沖のM5. 8の地震に伴うステップ状の変化が見られた。
- \*3: 石廊崎で2006年7月14日に局所的な変化が見られた。

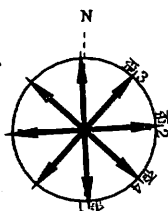
# 掛川歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

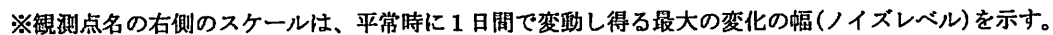
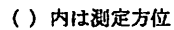


\*1 : 2006年8月27日頃から9月1日頃にかけて歪変化が観測された(第244回判定会委員打合せ会資料参照)。

\*2 : 2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。



・気圧，潮汐，地磁気補正データ

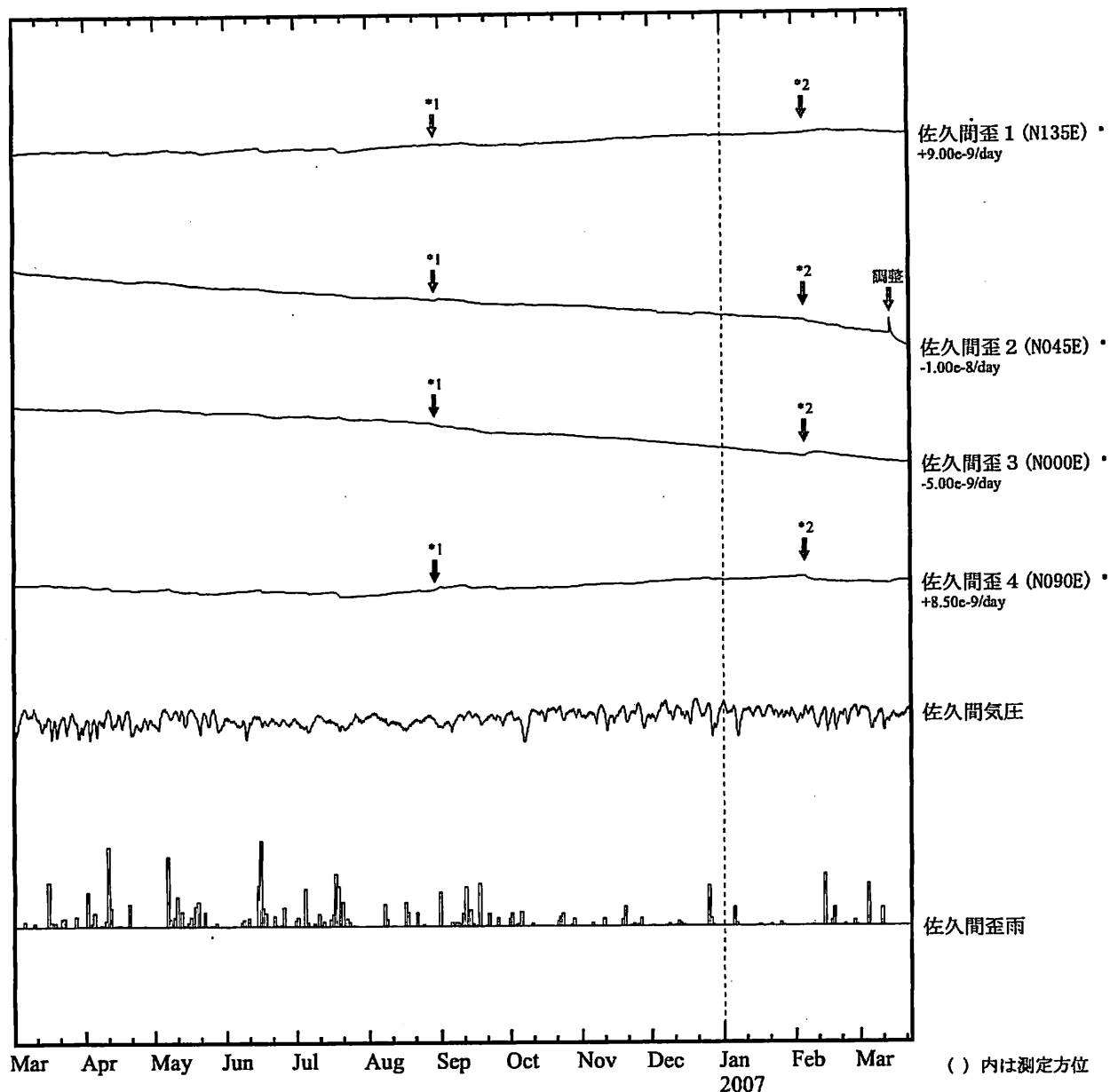
**Exp.**

\*1: 2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。

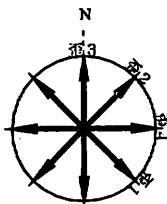
# 佐久間歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



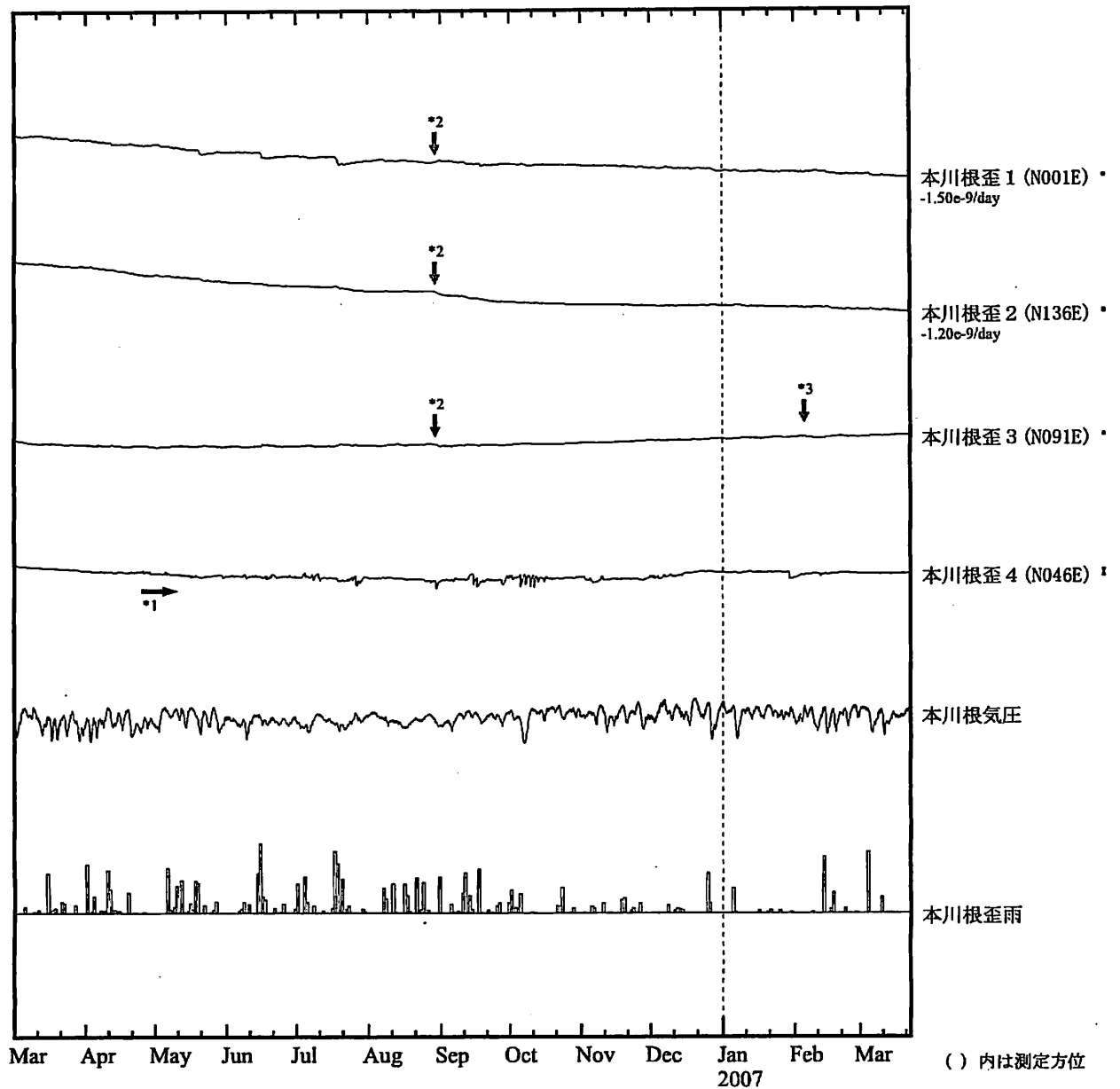
\*1 : 2006年8月27日頃から9月1日頃にかけて歪変化が観測された(第244回判定会委員打合せ会資料参照)。

\*2 : 2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。

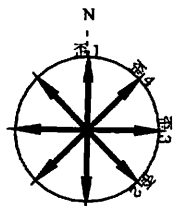
# 本川根歪変化 時間値

・ 気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



\*1 : 2006年春頃から歪4で局所的な変化が見られた。

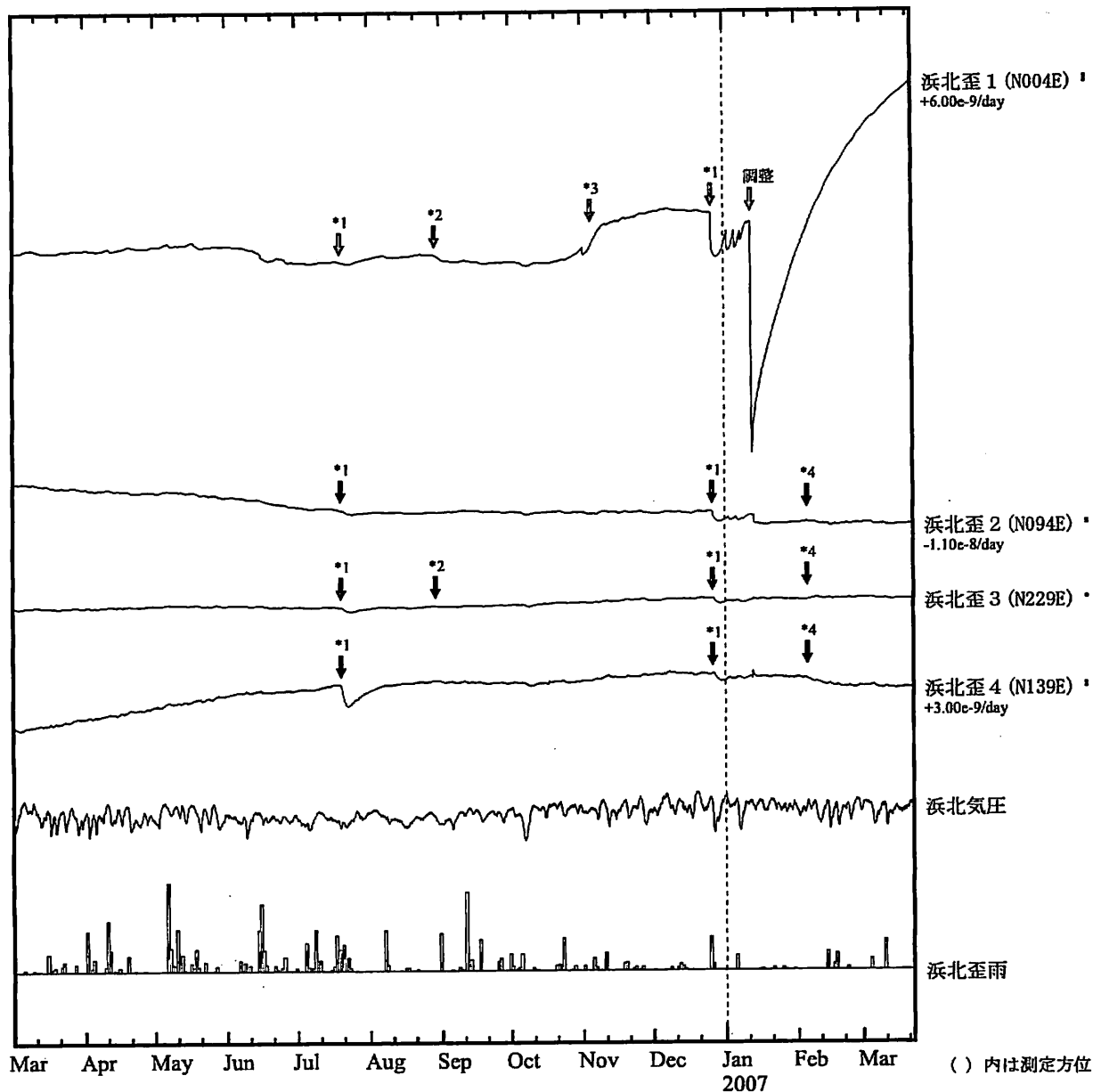
\*2 : 2006年8月27日頃から9月1日頃にかけて歪変化が観測された(第244回判定会委員打合せ会資料参照)。

\*3 : 2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。

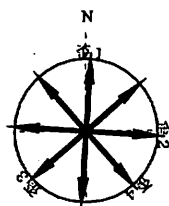
# 浜北歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.  
↑ 2.0e-07 strain  
30 hPa  
50 mm/day



( ) 内は測定方位



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- \*1: 2006年7月19日以降及び12月26日以降、センサーのごく近傍で局所的な変化が見られた。
- \*2: 2006年8月27日頃から9月1日頃にかけて歪変化が観測された(第244回判定会委員打合せ会資料参照)。
- \*3: 2006年10月下旬から11月上旬にかけて歪1で局所的な変化が見られた。
- \*4: 2007年2月5日頃から13日頃にかけて歪変化が観測された。